

53
ボリビアの

生活と労働

監人 日本海外協会連合会編

海外移住の手引き

第四輯

ボリビアの
生活と労働

財団法人 日本海外協会連合会編

海外移住の手引き

第四輯

国際協力事業団

| | | |
|----------|-----------|------|
| 受入 月日 | 84. 8. 20 | 702 |
| | | 23.4 |
| 登録No. | 13077 | EA |

目次

| | |
|----------------|---|
| 序に代えて——ボリビアの概観 | 一 |
| 一、国 土 | 八 |
| 二、動植物 | 二 |
| 三、行政区劃及び人口 | 四 |
| 四、国 民 | 六 |
| 五、鋳 業 | 七 |
| 六、農 業 | 二 |
| 七、工 業 | 三 |
| 八、勞 働 | 四 |

| | | |
|-------------------------|-------|----|
| 九、生活水準 | | 二六 |
| 一〇、外国貿易 | | 二七 |
| 一一、運輸及び通信 | | 二八 |
| 一二、通貨及び銀行 | | 二九 |
| 一三、政 府 | | 三〇 |
| 一四、宗 教 | | 三一 |
| 一五、教 育 | | 三二 |
| 一六、防 衛 | | 三三 |
| 一七、歴 史 | | 三四 |
| 一八、都 市 | | 三五 |
| 一九、東部ポリビアの日本人入植地 | | 三六 |
| 二〇、日本国政府とポリビア政府との間の移住協定 | | 三七 |

附 表

| | |
|-------------------------------------|-----|
| 1、ボリビア経済における金属輸出の相対的重要性を示す表 | 一〇三 |
| 2、世界のすず産出表 | 一〇四 |
| 3、一九四〇—一九四九年の期間にボリビアの取引したすずの平均価格表 | 一〇四 |
| 4、一九四〇—一九四八年の期間におけるボリビア大鉱山の一月平均労働賃銀 | 一〇五 |
| 5、一九四九年における各種鉱山グループの鉱物産出高(但しすずを除く) | 一〇五 |
| 6、年間降雨量表 | 一〇九 |
| 7、ボリビアの土壌 | 一一三 |
| 附 図 | |
| サンタクルス地方の日本人入植地図 | 一一五 |
| ボリビアにおける降雨量分布図 | 一一〇 |

| | |
|-------------------|----|
| ボリビアにおける農業上の地域区分図 | 二二 |
| ボリビアにおける地文学的区分図 | 二三 |
| ボリビア地図 | 折込 |
| ボリビア振興計画概要図 | 折込 |

序に代えて——ボリビアの概観

ボリビアの国民は彼等の国、彼等自身、彼等の考へを劇的、且つ絵の様に多彩に描写するにあつて非常に簡単にやつてのける。即ち彼等のよくいいならした隠喩の中にボリビアを「金の椅子の上に安座した乞食」というのがある。

ボリビア人は非常に氣位が高いので恵みを乞う事はしない。しかし金は重要な国産品でないにもかかわらずこの隠喩は一方における国民及び政府の相対的な貧困と、他方に於ける同国の天然資源の豊富さとの間に今なお存する対照を考えるとまことに當を得たものである。

世界にはこれ以上に多様性のある原料を天然から授けられている国はあまりない。ボリビアは赤道下さほど離れていない位置にあり、海拔平均二〇〇〇〜三〇〇〇フィートの豊饒な土地オリエンテから一三、〇〇〇フィートの高さのアンデスの最高峰の間に果しなく拡が

るアルティプラノの乾燥地に至るまで夫々異つた高さの地を有している。同国の氣候及び土壤条件は良好で、殆んどあらゆる種類の植物の栽培及び動物の飼育が可能である。豊かな土壤、飲物岩塊、同共和国を流れる川等を適当に利用すれば、人々は物質上の要求に不満を持つ事はあまりないであろう。食物、家屋、衣服、動力等、すべてが利用出来るのである。ポリビアの来るべき未来の多くの世代が応分に氣楽で満足な生活を営むのを妨げられるような物質上の理由は存在しないように思われる。

農業に於ては、共和国はその多様な地理的、且つ氣候上の条件と同程度に豊富な日常生活品を供給出来るのである。オリエンテやベニの低地、或いはエンガスの險しい青草の繁茂した谿谷から蜜柑類、その他熱帯の果実、コーヒー、砂糖、茶、カカオ、米、有利ではあるが有害なコカ等が収穫される。又この地域では鬚根、棉花、ゴム等も供給される。アルティプラノに至る、或いはそれより上の高地では裸麦、小麦、キナ、じゃがいも等が常食となつている。広々と拡がるベニやサンタ・クルスから南の方では牛馬の放牧が可能であり、アルティプラノでさえも、野生のリヤマ、アルバカ、ウイクーナと同様に、多数の

羊、豚、凶暴な高山動物等の棲息しているのが見られる。低地の川や湖、山に取り囲まれたティティカカ湖は魚を供給する事が出来るのである。しかしこれはまだ十分に推定されでもないし、又開發もされていない。

ボリビアの約五分の二は森林によつて覆われており、この地域の多くは近寄る事が困難であり、市場も遙かに遠いとは云え、開發及び運輸面で技術的に改善されれば、このすばらしい資源の価値を果進的に増すことであろう。二、〇〇〇種以上の樹木のあるボリビアの森林はその種類、寸法、質等の点に於て著るしい複雑さをその持ちようとしている。最も著るしく欠乏しているものは温帯の化学工業や建設工事に非常に重要な松、樅の木にたとえられる柔材である。これに反して家具材は非常に豊富であり、其他にゴムの木、食用木実、cucurba 樹皮等もある。現在ボリビアは同国の歴史が始まつて以来今迄にない程木材を渴望しており、この偉大なる遺産に注目を向け始めている。

ボリビアは過去の歴史を通じて伝統的にアンデス山脈の鉱物を国内の富の最大の根源、且つ外国貿易に於ける最も重要な項目としてきた。インカスの金やポトシーの壯麗な銀山

に魅せられたスペインの初期の侵略者達はこの高原の国ポリビアを「銀の脚を持つた金の机」と述べている。実際は、すでに指摘した様に、同国の金の生産は決して大なるものではないが、幾く世紀もの間銀はアメリカへの最も重要な輸出品目の一つであり、その盛時には、ポトシーは大西洋岸諸州の中で最大の都市であつた。後に銀の資源が枯渇すると、次にすずの壮観な鉱脈が発見され、これが同国の経済構造の主要な要素となつた。初期の征服者のなした仕事を拡張し、且つ試掘及び開発に現代的な方法を利用してゐる。最近の調査によれば、同国は亜鉛、鉛、アンチモン、タングステン、銅、鉄等を有している事が明らかにされた。最近更に、石油及び石炭ガスが相当量埋蔵されている事が確認され、同国の高地の住民にとつて常に重要な問題となつていた国内燃料問題が解決されようとしている。これにより燈用石油ストーヴがアルティプラノやジャングルの生活にさえも機械時代の二つの遍在的な貢獻の一つとしてミシンに加わる事になるであらう。

これらの鉱物の発見及び開発はすべて同国の詳細な地理的研究に真剣な努力をする事なく成し遂げられたので、同国の地図及び測量が現代的標準にまで高められれば更に鉱物資

源が発見、附加されるだろうと期待しても意味のない事ではない。

共和国の各所に在ると知られている無煙炭或いは瀝青炭に重要な鉱脈がないとはいへ、褐炭及び泥炭の鉱床が発見されており、その将来の有用性が期待される。しかしながら石油は別として、ボリビアの経済力を強固にするための主要なエネルギー源は水力資源に求めるべきであり、又将来もそうであろう。不幸にもこの分野に就ては同国ではいかなる重要な科学的研究も今迄になされていなが、同国にはガス及び石油工場と共に、全国内需要を将来長期間に亘つて充たす水力発電をおこなす可能性があると、この事は深い観察を待つまでもなく明らかである。

他の国の場合と同じくボリビアで最も重要な国内資源はエネルギー、国民性、及び国民の知性に求めるべきである。三百万から四百万を占める異種の人種の構成及び分布は恐らく同国で最も困難な問題であろう。この人口の約三分の二はアルティプラノ及び山間の谷間に集中しており、殆んどケチュエア及びアイマラ族のインディアンで構成されている。インカ文明及びその前任者はこの種族にそのあとを辿る事が出来る。現在のアイマラ及びケチ

ユア族は頑強、勤勉、儉約な国民であり、かつてその祖先が優秀性を遺憾なく發揮した社会的結合及び紀律の能力、工夫力及び手先の器用さ等を受け継いでいる。同国の鉱山及び工場労働者は大部分この種族の者である。しかし彼らの大多数は今なお現代文明から孤立した生活を営んでおり、祖先の言語を語り、昔からの習慣、迷信を保持し、伝統的な衣服を身に着け、自給自足的な規模で土地を耕やしている。その文明が皮相的に南ヨーロッパに属している国では、彼等はコロンブス発見前のアメリカにほんの部分的にしか同化していない生存者なのである。

一方東部ボリビアの広大な熱帯平原には人口はまばらであり、主に次の種々の種族が住んでいる、スペインの入植者の殆んど純粹な子孫の集団、アイマラ及びケチュア族、混血人種、ジェスイットの宣教師から学んだ文明に今なお生きているスペイン語を話す原住民及び広大な森林地帯で原始的野ばんな生活を今なお営んでいる種族等である。

スペインの征服者はボリビア國民にヨーロッパ・ルネッサンスの善悪両面をもたらす事になつた新しい要素を注ぎ込んだ。これら初期のスペイン侵略者及びその後続く移住者

の性格はボリビアでもラテン・アメリカの他の地域に於けると同じ状態である。そしてこの半球で發展してきた物質及び精神兩文明の建設にあたつて非常に効果的にこれらの要素をこの新世界の人々に受け入れせしめた能力は現代ボリビアの生活に今なお生きているのである。

ボリビアは南アメリカで五番目に大きな共和国であり、大凡南緯九度四分から二三度に、西径五八度から七〇度に位置している。国土面積は四一六、〇〇〇平方マイル、即ち現在の日本の面積の約三倍に當つている。人口は一九五〇年八月の国勢調査に依れば三、〇一九、〇三一人と推定されている。同国は北部及び東部をブラジルに、南をアルゼンチン及びパラグアイに、西部をペルー及びチリに夫々接している。南アメリカ共和国の二つの内陸国の一つである。(他の一國はパラグアイ)

ストクレイ(一九五〇年の人口四〇、一二八)は法律上の首都ではあるが、ラパス(一九五〇年の人口三二一、〇六三)も又首都としての役割を果している。大統領及び政府役人はラパスに住んでいる。国会はここで開会され、ボリビア政府に派遣されている外国の

外交官の住居もここにある。しかしながら上院は今でもその開期中はスークレイにある。現在用いられている貨幣単位はボリアノで、一九五三年には合衆国貨幣の約〇・〇一六ドルの価であった。法定の度量単位はメートル法であるが、古いスペイン単位が今でも広く用いられている。国旗は中央部に紋章があり、その周囲は赤、黄、緑の三色の層で色どられている。

一、国 土

ボリビアは三つの広い地域に分けられている。アルティプラノ地域は平均海拔二二、〇〇〇フィートの広大な高原地帯であり、共和国を北西から南東に横切っているアンデス山脈の平行な二峯の間にある。西部の山、オンデンタル山脈はボリビア、チリ間の国境をなしている。アンデス山脈の最初の峯、レアル山脈は東に八〇マイル走っており、殆ど同国の中央部を貫通している。これはさらに北東に分岐し、平原へと下つている。ペルーへと

北に六五から一〇〇マイルの広さでのびている高原地帯は共和国全面積の一六パーセントしか占めていないが全人口の四分の三がここに住んでいる。同地域の主要都市にはラバス、オルロ、ポトシ等がある。高原地帯では気候は常に涼しく平均気温は五〇度であり、冬期の降雪時を除けば夏と冬の間に気温の相違はあまりない。海拔約一三、〇〇〇フィートから雪線（一八、〇〇〇フィート）迄の高さの地域は寒冷地帯であり、僅か牧羊者及び坑夫しか住んでいない。雪線を越えると熱帯内でも北極帯となる。ポリビアにはイラムブ、イリマン、サハマ等の非常に高い山が多くあり、これらはいずれも二一、〇〇〇フィート以上である。

同国で第二に大きな地域はインディアン語のニンガスとして知られた所であり、これは高原地帯に接した北部及び東部を指している。小谿谷、険しい山の傾斜、深い谿谷等がこの地域を特徴づけている。ポリビア全面積の約一四パーセントが同地域に含まれている。同地域はボ国の主要な農産地で、ラバス及びその他の都市に野菜、果実、花等を供給している。ニンガスには一年中温和な気候を持ちリビエラや其他の地中海の有名な地域を回想

させるような所がある。谿谷には屢々雨が非常に少い所があるが多くの場合灌溉用の水の供給は充分である。

ボリビアの第三の部分である広大な低地平原リヤノスは国土の約七〇パーセントに当たっている。これらの平原は海拔五〇〇〜二、〇〇〇フィートでパラグアイのチャコ地方、アルゼンチンおよびブラジルの国境と接している。リヤノスには熱帯で、湿潤地で、森林の密生した地域がある。平均気温は約七七度で、温度の変化は少く、降雨量は一年を通じて多い。リヤノスの他の地域は農耕及び家畜飼育に殆んど理想的である。しかしここは大部分が未開発であり、人口密度も小さい。

同国は航行可能な川が五、五八〇マイルあり、丁度網状組織になつている。アマゾン河の支流にはマモレ川、イテネス川（グアボレ）、ベニ川、マードレデディオス川等があり、これらはマデイラ川にそそいでおり、パラグアイ河及びビルコマヨ河の水はラ・フラタ河にそそいでいる。同国には又高地に数多くの湖もある。ペルー、ボリビア間国境一二、五〇〇フィートの高さにある壮大なティティカカ湖は南アメリカで最大の湖（四、五〇〇平

方マイル)であり、定期蒸気船が航行している。湖では世界で最も高い湖である。より南に位するボオボ湖は平常四、〇〇〇平方マイルの面積を持ち、ティティカカ湖とデッサンデロ川によつて連結されている。

二 動植物

ボリビアの植物は各地域の氣候に應じた変化をしている。高原地帯では植物はまばらで北極の様である。アマゾン盆地では植物は繁茂し、熱帶的である。高原地帯には商業的に採算のあう植物はあまりない。Coca草は屋根葺きに用いられ、丈の低い灌木はたき木用に用いられる。小麦、裸麦、ライ麦、えん麦、南米原産以外の穀物等は海抜の如何にかかわらず同国の各地で栽培されているが、全人口の必要量を充たすだけ充分な量ではない。じゃがいもとキナの葉が高地に住むインディアンの主要食物である。ゴムは *petate* や *sarsaparilla*、*パニラ*、或は纖維の長い棉との間作で商業的に栽培されている。染料木、

ヒマラヤ杉、胡桃樹、マホガニー、ケブラ
ーチョ等も栽培されている。アルカロイド・
コカインに富んだコカは商業上最も重要な
栽培物であろう。キニーネに富んだキナの
林は東部傾斜面に見られる。現代的な輸送
組織が完成すれば多くのこれらの木の生産
は非常に拡張する可能性がある。

最も重要なポリビアの動物の中には駱馬
アルパカ等があり、これらは以前からイン
ディアンに依つて飼ひならされており、高
原の国ポリビアの経済に重要な部門を占め
ている。駱馬はもともと荷駄動物として扱
われており、値打の高い毛皮はアルパカや



住居附近の煙草の生育状況 地味肥沃等身大に生長する

ラマー——アルバカ科の野性のビクシーニヤから得られる。ビクシーニヤはアンデス山脈の荒涼たるバムバス（南米の樹木なき大草原）に住んでおり、この動物を狩る事は現在禁じられている。その毛皮のために獲えられるチンチラ（南米原産フランスで改良された家兎の類）も又寒冷な高原地帯に棲息している。南米の川獺はポリビアではよく知られた動物であり、その皮のために獲えられる。鹿は二、三種いる。熱帯地域には多種の猿がビニーマ、ジャガー、野猫、狢、樹懶、大食蟻獸等と共に森林に住んでいる。よろいねずみ、ふくらねずみ、いたち、スカンク等も多数いる。蛇の中には熱帯のがらから蛇、アマゾン地域の大王蛇もいる。鰐魚やとかげはジャングル地帯では数多い。鳥の生活は豊富である。コンドルは高山に住んでおり、が鳥、あひる、及びその他の水鳥は高地の湖にいる。こうずるの一種バターやアメリカ駝鳥は低地に多く見られる。マカウ、おうむ、はちどり、その他多くのジャングルに住む鳥が熱帯林に住んでいる。世界で最も大きな鱒がティティカカ湖におり、又山間の谿谷には小川があり、虹ます釣が行なわれている。

三、行政区劃及び人口

ボリビアは九つの区劃に分けられている。各地域及びその人口は以下に記しておく。これは一九五〇年八月の国勢調査に依るものである。(別表)

各州は大統領によつて任命された州知事によつて統治されており、更に各州は八七の県に再区分されており、これらは県知事によつて管理されている。県は又更に二、六の郡に細分されている。しかしこれらの郡はもともと行政的権力のない単なる地理的名称にすぎない。約四、五〇〇のインディアン社会は首長を選出している。これらの社会は正式の行政地域ではないが法律によつて認められており、インカ族以前からの伝統に従つて、この社会の支配になり、この社会の所有になる土地がうけつがれている。

一九五〇年に於ける総人口のうち都会に住む人口の割合は三三・五パーセントである。

一九五〇年の人口上の主要都市は次の通りである。ラ・パス三三二、〇六三、コチャバムバ

八〇、七九五、オルトロ六二、九七五、ポトシー四五、七五八、サンタ・クルス四二、七四六、スクレイ四〇、二二八、タリハ一六、八六九、トリニダド一〇、七五九、ヨビハ一、七二六。
 ボリビアの出生率は一、〇〇〇人につき約四五人、死亡率は一、〇〇〇人につき約三〇人である。

| 区 画 | 面積 (平方キロメートル) | 人口 (1950年の国勢調査に依る) | 一平方キロメートル当り人口 (1950年) | 州 都 |
|---------|------------------|-----------------------|--------------------------|---------|
| クスバン | 133,985 | 948,446 | 7.08 | クスバン |
| クロチヤンダム | 55,631 | 490,475 | 8.82 | クロチヤンダム |
| ホソト | 118,218 | 534,399 | 4.52 | ホソト |
| サンタ・クルス | 370,621 | 286,145 | 0.77 | サンタ・クルス |
| チムキサンカン | 51,524 | 282,980 | 5.49 | チムキサンカン |
| タリ | 37,623 | 126,752 | 3.37 | タリ |
| オロ | 53,588 | 210,260 | 3.92 | オロ |
| ヨビハ | 213,564 | 119,770 | 0.56 | ヨビハ |
| コ | 63,827 | 19,804 | 0.31 | コ |
| ト | 1,098,581 | 3,019,031 | 2.75 | ト |
| 総計 | | | | |

四、国 民

インディアン(ケチュア、アイマラー、ジャングル族)が人口の五四・五パーセントを(恐らく南米で最も大きな割合を占めている)、メステイソス(インディアンとスペインの混血)が三〇・九パーセントを、スペイン系ヨーロッパ人が一四・六パーセントを夫々占めている。各地の種族構成はティティカカ湖周辺の純粹のインディアンとは異つてゐる。ラパスでは半分以上がインディアンであり、東部山脈の谿谷では四人のうち三人がメステイソスかヨーロッパ人であり、特にコチャバムバ、サンタ・クルス、タリハでは殆んどがヨーロッパ人である。スペイン語は白人及びメステイソスの間で語られている。高地のインディアンはアイマラー語、ケチュア語の二母國語を話す。恐らく最も独特なインディアン文化及び言語は特に高原地帯で支配的なアイマラーのそれである。高原地帯以外の地域ではインカ語のケチュア語が屢々語られており、ジャングル族は彼等自身の方言を持つてゐる。

五、鋁業

ボリビアの経済は鋁業に基礎を置いている。鋁産物輸出額は共和国の総輸出額の九五パーセントを占めている。すず鋁業は最も重要なものである。ボリビアはすず生産量に於て世界で第二位であり、第一位のマライに次いでいる。すずの多くは高原地帯のレアル山脈西部で採掘される。大きなすず採掘地帯はウンシア、ポトシー、オルーロ、ラパス等である。主な鋁山は全産出額の四三パーセントを占めるララグッア附近、二五パーセントのセロ・デ・ポトシー、六パーセントのアニマス等である。小規模経営者によるものが全産出額の二六パーセントを占めている。多くの鋁脈は一一、〇〇〇から一六、〇〇〇フィートの高さに見られ、種々の形成岩を通じて小さな鋁脈となつている。氷河堆積物による鋁床が可成り多い。すずは製錬用の鋁石の形で合衆国や英國に輸出される。すずだけでボリビアの全輸出額の約六四パーセントを占めている。

鉛は同国で第二に重要な鉱物である。ポトシー地方で主に採掘されている。この産業は可成り拡張する可能性がある。同国は又比較的重要な銀の産出国であるが、その産出高は一八九五年にすずの産出促進が始められて、以前より減じた。銀はポトシーで採掘されているが、それは一六世紀以来の事であり、又ここはスペイン人が有名なセロ・リコ（裕かな丘）から数億ドルも上げた所でもある。銅は非常に含有量の多い鉱石のあるコロコロで採掘される。アンチモンとウルフラムは豊富である。タングステンも又共和国で採掘される重要な鉱物である。これは屢々他の鉱物と共に見出される。銀と常に混合している亜鉛はポトシー附近のブルカヨ・ウアンチャカで採掘される。ティティカカ湖周辺には亜鉛の重要な堆積物があり、この開発作業が可成り行われている。金は或る四し五の河川の砂の中に見出される。ティプアニに近いムネカス地域、及び北部のアクレ地方では金を採掘するための努力が今までになされて来た。

ボリビアの石油生産は少ないが、有望性のある天然資源とされている。一九五二年の生産は一日に付き約二、二〇〇バレルであり、同国の消費量三、〇〇〇バレルに充たない。主

な産出地は南東地区のカミリーであるが、ここから管を通じて製油所のあるコチャバムバ及びスクレイに送られる。又アンデス山脈の東部に当り、アルゼンチン国境周辺のサナンディダ、同地域より遙か北部に当るカマティンディ、アルゼンチンとの国境でホルーロの南部に当るベルメーホ周辺にも油井がある。ラ・パスにも石油があると云われている。油井及び製油所はすべて政府によって所有され、且つ運営されている。現在産出に着手されている油井が完成すれば一九五四年迄に同国の石油の需要を充たす事が出来るようになるであらう。

鉱業及びそれに伴う輸送、動力、その他の事業の産業は同国に於ける主なる大規模雇傭先であり、又同国に於ける外国人の投資の殆んどを吸収している。高原地帯に比較的人口密度が大きいのも鉱業に依るものであり、これは同国の主要道路の建設及びその位置に帰すべきものである。

ボリビアは一六世紀に於けるスペイン人の征服の当初以来その第一の産業を鉱業としている。一五四五年にポトシーに於て銀が発見されて以来、同地域は二〇〇年来世界の主要

な銀の生産国の一つとして知られている。ポトシーの町はその収入を殆んどすべて銀から得ており、その人口は一六五〇年には一六〇、〇〇〇人に達し、殆んど全植民期間を通じて世界の大都市の一つであった。一八二五年以後銀は初期共和制時代を通じてボリビアの輸出を支配し続けていた。しかし又同時に他の鉱山がポトシーのそれに影きようを及ぼし始めていた。一八七九年頃銀の生産は低い世界価格と鉱山の枯渇との為に減退した。ナズが發見されるとその生産は着々と増し、一九〇〇年以後は初期植民時代以来の銀より重要になつた。

ナズの生産は一九〇一年になると次の幾つかの理由で増大した。工業用金属としての需用の増加に伴う価格の上昇、銀鉱山の棄坑、これに基づき労働力の過剩、一八九〇年代に於けるチリ海岸からボリビア鉱山地域への鉄道の完成である。第一次世界大戦はボリビアの鉱山業に強い刺戟を与えたが、一九三〇年代の世界的経済不況が同産業の活動を阻止した。第二次世界大戦の勃發に依り、同盟国が東インドからナズを輸入出来なくなつた為に、ボリビアの鉱業は再び大いに刺戟された。これ以来西半球の資源の重要性が強調されるよ

うになり、特にボリビアのすずは合衆国により重要視されている。

六、農 業

ボリビア人口の三分の二が農耕に従事しているが農業は同国の経済生活に於ては従属的な役割を果している。ボリビアの総面積の僅か二パーセント以下が耕作されているにすぎない。カカオ、砂糖、とうもろこし、裸麦、じゃがいも、コーヒー、獣皮、ゴム等が主要産物である。じゃがいもは、アイルランドポテトとして知られているのだが、最初ボリビア高原地帯の食物として栽培されていた。インカ期以前にインデアンはその秘法を保つためにじゃがいもを脱水する事を学んだのでその作り方は今でもなお彼らにしか知られていない。脱水いも（キノアと共に）及び食糧的価値の著るしく高い穀物が高原地帯に住むインデアンの主要食物である。上質のコーヒーはエンガス地方で栽培されており、又カカオ生産も殆んどこの地方に集中している。ゴムは輸出用に生産されているがその量は二七一

七年の記録的輸出額五、七五一トンを遙かに下廻つてゐる。家畜は同国の南東部で広く飼育されている。トリニダーが主要な家畜市場である。アルバカ毛取引の中心地はチャラナ及びプエルトアコスタである。砂糖は熱帯低地で米はサンタ・クルスで栽培されている。同国の農業生産は末だ国内の需要に見合うだけ充分ではなく、農業生産物は国内総輸入額のほぼ三分の一を占めている。小麦、砂糖、小麦粉、米、肉の輸入額は一九四九年には一、〇〇〇、〇〇〇ドルに近い。しかしながら機械化農耕は急速に浸透し始めており、多くの機械が同国に購入されている。ポリビアは食糧を消費する諸都市と将来食糧生産の可能性ある地域との総合的開発を企図している。サンタ・クルスとコチャバム間に建設されている現代的な道路は一九五四年に完成する計画である。これが完成すれば同国の東部から高原の町々に食糧品をより速やかに運搬する事が出来るであろう。又これにより豊かな低地に農業を更に拡張させる事も望まれている。従来ベニ州から高原地帯に肉を飛行機で運んでいた為にアルゼンチンからの肉の輸入は最少限に減じている。

七、工業

ラテンアメリカの多くの国の例にもれずポリビアも生活水準の向上という意味で工業化に関心を持つている。しかし今迄のところこの様な発展も軽産業に殆んど限られている。

製造工業は主にセメント、綿、織物、革製品、小麦粉、タバコ、羊毛、ガラス製品等の地方消費向けの物品の製造に限られている。工場は殆んどラ・パス及びコチャバムバにのみ建てられている。織物工場、製粉工場、醸造所は現代的で設備がよく整っている。国民所得の大凡一パーセントが工業から得られる。

ポリビアの燃料は安価でない。石炭はなく、輸送設備は著るしく限られている。この様な事情から工業の発展が遅れた。しかし組織がより充分に現代化され、国内の豊富な水力資源がより充分に利用されればこの状態は変わるだろうと信じられている。

家内工業はインディアンの間でよく発達している。彼等は特に衣類、陶器類、銀細工物等

を作る事に熟達している。

八、労働

ポリビア政府は数多くの進歩的な労働立法を制定している。最近の法案は工業国の労働立法の模範に従っている。現代的な立法の雛型は一九四〇年代初期以来次第にその数を増している。一九三九年の労働規約（これは一九四二年に法として制定されたのだが）、はそれまでの多くの法案を編纂したものである。この規約に依れば五〇〇人がそれより多数の労働者を雇傭する企業体（大鉱山会社なども含む）はすべて労働者の為に医療設備を施し、これに医薬を与え、或いは又病院を設置しておく事の出来るようにしなければならない。又雇傭人数が二〇〇人以上で、且つ最近接都市から六マイル以上にある鉱山地域では労働者のための無料住宅を建て与えなければならない。其他の規約を掲げて見れば、一日八時間、週四八時間労働制、一八才以下の女、子供は一日七時間、週四〇時間労働制、継

続労働時間の五時間以内制、自由な職業紹介所等である。規約は又最低賃金は労働大臣によつて定められる事とし、超過勤務に対する手当、夜勤に対する二五〇五〇パーセントのボーナス、有給年次休暇等を与える事を定めている。

ポリビアの社会保障は次の形態をとつている。(1)事故及び業務上負傷或いは疾病に対する補償制度、(2)鉱山及び運輸関係労働者に対する強制貯金計画、(3)各種役人及び給料生活者に対する年金、即ち教員、郵便、電話関係被傭者、裁判所、銀行、印刷業、鉄道、ジャーナ



ラ・パス市の総同盟前を行進する労働者

リスト関係被傭者等。大統領パス・エステンソロの政府は養老年金、健康保険、出産手当等を含む社会保障制度を漸次拡張して行く計画に乗り出している。この計画は都心を始めとして同国の各地に進められて行くであろう。鉱山会社は労働者の事故、疾病に備えての保険及び貯蓄のために彼らの賃金支払表の三〇パーセントを支払っている。この支払額は鉱山の危険率に基づいて決定される。労働者は賃金の五パーセントを提供するが、そのうち一パーセントは補償基金に、残り四パーセントは強制貯金の計画に基づいて投資される。補償金は身体の一部に支障が出来て一時的な不能が六ヶ月以上続いた場合には六ヶ月、死及び永久的不能の場合には四年間の労賃が支給される。すなわち鉱山の労働者は同国で最も重大な組織されたグループを構成している。工場及び鉄道の殆んどの雇傭者も又組織されている。

九、生活水準

ボリビアは潜在的に富裕であるにもかかわらず現在は貧しい国である。国民所得及び實質労働賃銀の水準が低い事、又国民の文盲率が高く、無知である事等のために一般生活水準は低く、屢々ひどいものである。しかしながらこの状態は地理的、地域上の又種族の相異に従つて夫々異つてゐる。それ故これらを総括するに當つて明細に亘る事は危険である。更に信頼出来る統計が殆んど全くないので調査は主に食物、住居、衣服等の特徴的な面にそつた広汎な觀察に依らざるを得なかつた。

食 物

同国で生産される食物の量及び人口状態について、信頼性のある推定がなされていないため頭割り食物消費の詳細な数字を示す事は出来ない。しかしながら或るグループの消費については多少意義のあるサンプルが利用出来るのである。かくして一九四九年に労働省は家族一人当り一日平均約六〇ボリビアノ（約〇・六ドル）所得のラバス賃銀労働者五〇〇家族を対象として食事情調査にあつた。労働省から報告された第一段階の数字によれ

ば、これらの家族の一日一人あたり平均カロリー消費量は一、六一三カロリーである。成人男子当り消費量に換算すると、一般に推奨される一日カロリー許容量三、〇〇〇と比べて、この場合は大凡二、〇〇〇カロリーを出ないのである。但しこの許容量は平均体重七〇キログラムの成人男子当りの数である事は認むべきである。ポリビア人の平均体重はかなり少く、従つて彼らのカロリー必要量は西洋の標準より少いと云う事は当然認めなければならぬ。逆に云つて、この様に身長及び体重が平均して小さいと云う事は国民の生活が絶えず窮乏している故かもしれない。

釧山地帯のブルベリア（商店を所有及び経営している組合）食料販売に就ての調査に依れば、釧山労働者はラ・パスの労働者よりも可成りその平均食物消費額が高い事が判明した。これは名目賃銀が平均して高いと云う事ばかりでなく、釧山における重労働生活がより軽労働の仕事に従事している者よりも彼らに高いカロリーを必要とせしめるのである。しかしながらこの条件も各釧山で夫々異つてゐる。即ち、概して云えば、中規模釧山に於けるよりも大規模釧山に於ける方が、又小規模釧山におけるより中規模釧山に於ける方が

より好条件にあると云えるのである。労働者はブルベリアで買った食料を転売する場合がある（ブルベリアに於ける価格は市価よりも屢々低い）と報告されているが、これが真実である限り実際の消費量は売れた量より当然下る事になる。一般に、労働者は彼らの労働賃銀の或る割合しかブルベリアでの購買に費やせないのである。故に大家族の方が小家族よりも暮し工合が悪くなりがちだと報告されている。総括するに當つてあまりにドグマに陥らない様に注意して次の事が云えるだろう。即ち、鉱山労働者で深刻にカロリーに不足しているのは、一般に或る小規模鉱山に限られていると云う事である。

農業人口に関する信頼性のある推定は全くない。しかし情況は各経済グループのみならず各地理的条件によつても夫々異なつていゝという事は確かである。更に農村人口の大部分は市場取引から全く離れた自給自足的生活を営んでいるので、彼等の実際の消費は収穫の結果に従つて変化すると云う事は明らかである。豊年には人々は比較的豊富な食生活を享受するが、凶年には彼等の消費は低下しがちで、飢餓の線にまで下る事がある。しかしながら平年には、栄養不足とは異なる徹底的、頑固な飢餓状態を發見する事は出来なかつ

た。勿論この事實は食料の消費量の増加が増すべき事だと云う事を意味しているのではない。

深刻な栄養不足の徴候がある。即ち食物の組成が幾つかの点に於て屢々標準より遙かに不足しているのである。しかしながらこれに関する統計がないので、これらの結論は必然的に試験的なものであり、不確実であり、又第一段階のものであると繰り返し云わねばならない。

ボリビアの食事の組成を分析するに当り先ず第一段階として、食物内容の内、肉を検対してみる事は有益である。殆んどこの国に於て、肉は相対的に高価な食物であり、その家族又は集団が貧乏しなければ貧しい程、その摂取する食物の大部分が野菜——主に穀物及びびじやがいも——から成りがちである。次に掲げる表は一九四六と四七に亘るボリビア及び幾つかの国に於ける国民一人当りの牛馬、豚、羊の公式推定数を示している。

この数字では厳密に比較する事は出来ない。ボリビアの人口数（ここでは四〇〇万と推定されている）が確實でないのみならず、ボリビアの動物の平均の重さは先進国のそれよ

| 国名 | 牛 | | 馬 | | 豚 | | 羊 | |
|---------|---------------|------|---------------|------|---------------|------|---------------|------|
| | 数 (1000単位) | 一人当り | 数 (1000単位) | 一人当り | 数 (1000単位) | 一人当り | 数 (1000単位) | 一人当り |
| アメリカ合衆国 | 81,207 | 0.56 | 56,921 | 0.40 | 37,818 | 0.25 | | |
| オーストラリア | 3,808 | 0.14 | 4,700 | 0.16 | 19,500 | 0.72 | | |
| イギリス | 2,722 | 0.23 | 1,062 | 0.10 | 460 | 0.05 | | |
| フランス | 7,263 | 0.16 | 3,891 | 0.09 | 8,315 | 0.18 | | |
| ドイツ | 15,100 | 0.31 | 5,334 | 0.13 | 7,259 | 0.17 | | |
| 中国 | 18,998 | 0.04 | 53,758 | 0.13 | 9,191 | 0.02 | | |
| カナダ | 9,016 | 0.75 | 5,499 | 0.45 | 1,782 | 0.15 | | |
| ベルギー | 1,652 | 0.23 | 616 | 0.09 | 144 | 0.02 | | |
| アメリカ | 41,268 | 2.5 | 2,891 | 0.18 | 50,857 | 3.19 | | |
| ポロランド | 3,091 | 0.75 | 1,020 | 0.25 | 4,289 | 1.1 | | |

り遙かに少ない事は殆んど確かだからである。更に、屠殺数は不明の為表わされ
ておらず、又肉の分配も適当な運輪及び
分配の手段に欠けているため多くの困難
に遭遇しているので、実際に消費される
肉の量については確実な結論は引出せな
い。しかし一方に於て肉の輸出は行われ
ておらず（実際には肉はいくらか輸入さ
れている）、又他方に於て人口に比較し
て家畜の数が相対的に多い事を考へて見
ると、肉の消費は可成りのものであると
思われる。

ラ・パスの低所得者の栄養調査に戻る



ラ・パス市街頭市場

と、一日一人当り肉消費量は約一五〇グラム、一年にして約五四キログラムであると示されて
 いる。この数字を成人男子一人当り消費に換算すると一年に約六七キログラムとなる。
 再び留保附きて、次の表はこの試験的数字を幾つかの国の記録された労働者階級の消費量
 と比較している。

ポリビア国労働者階級の肉及び魚の消費の各国との比較

| 国名 | 年次 | キログラム |
|-------|-----------|-------|
| ポリビア | 一九四九 | 六七・〇 |
| ベルギー | 一九二八—一九二九 | 五八・八 |
| ブルガリア | 一九二七—一九二八 | 三七・五 |
| カナダ | 一九三七—一九三八 | 六一・八 |
| チリ | 一九三五 | 五五・二 |
| コロンビア | 一九三六 | 四四・五 |
| デンマーク | 一九三九—一九四〇 | 六二・九 |

| | | | | |
|----|---|---|-----------|------|
| ド | イ | ツ | 一九三七 | 四一・九 |
| ハン | ガ | リ | 一九二九 | 二八・四 |
| メ | キ | シ | 一九三四 | 五〇・八 |
| オ | ラ | ン | 一九三五—一九三六 | 三八・八 |
| ポ | ー | ラ | 一九二九 | 五一・一 |
| ン | ド | | 一九三八 | 六〇・八 |
| ブ | エ | ル | 一九三三 | 六七・四 |
| ト | ・ | リ | 一九三六—一九三七 | 三四・八 |
| コ | ス | エ | 一九三七—一九三八 | 四八・一 |
| ス | エ | ー | 一九三四—一九三六 | 七四・五 |
| ス | エ | ー | 一九三九 | 六八・二 |
| イ | ギ | リ | | |
| ス | | | | |
| ア | メ | リ | | |
| カ | 合 | 衆 | | |
| 合 | 衆 | 國 | | |
| ウ | エ | ネ | | |
| ズ | エ | ニ | | |
| ラ | | | | |

ポリアでは一人当り全カロリー消費量は大部分のヨーロッパの國のそれより可成り少
いとはいえ、一人当り肉の消費はそれらの國に於けると同じ位か又はそれ以上である。

従つて食事に占める肉の割合は著しく高い——察するところ、食事に動物性蛋白質の占める量は絶対及び相對推定許容量の二者が充分に一致するほどである。

釧山社会に戻ると、平均肉消費量はラ・パスに於けるそれよりも高くさえあると云う事が明らかになつてゐる。このようにして、カタール・ヴィ・釧山に於けるブルベリアの肉販売量（執勞日一日につき）は一九四九年には一・八一ポンドにのぼつたと云う。すでに述べた理由によりこれらの数字は栄養調査に表わされる結果と比較できないとわいえ、これらの事は肉の消費が相對的に高いという事を明らかに示してゐる。

農村人口に依る肉消費量を推定する事はより困難である。しかしながら農村に於ては大部分の都市及び釧山社会に於けるよりも著しく低いだろうと云う事は殆んど確かである。例えばアルティブラノの典型的インデアン家族は自家消費のために一月約一頭の羊を殺すと云われており、肉は屢々乾燥して食に供される。この傳統的に低い肉消費が長い間の習慣に依るのか、或いは又全くの經濟的要件に依るのか判断を下す事は容易ではない。

ポリビアに於ける総カロリー消費水準が相對的に低い事を考へて見ると、肉の消費は人

口のある部分では比較的高いが、ミルク、ミルク製品、卵の消費量は非常に少い。前に引用したラ・パスの調査に依れば、五〇〇家族の内四〇七家族は全くミルクを消費せず、九一家族が一日一人当り一〇〇〜二〇〇グラム消費している。一九四九年に於けるカタール・イ・鉱山での執労日一日当りブルベリアの販売量は煉乳が〇・一トン、evaporated milkが〇・〇六トンであり、殆んど無視出来るほどの数字である。これと同じ状態が農村人口の間に普及しているように思われる。しかしながらこの低い消費は一つには、有用な牛があまり利用されていない事に依る事は明らかである。消費組成の慣習が改善され、より合理的な農業が紹介されれば、ミルクの消費は現存の農業資源のわく内でさえ著しく拡張出来ると期待してもよいだろう。

果実及び野菜の消費について信頼性のある推定を与える事は不可能である。ラ・パスの調査はこの項目を全く無視しており、又鉱山地帯に於ては、これらは地方の行商人によつて供給されるのでブルベリアではこれらの日常品を一般に扱っていない。地方市場及び各個人の食物を視察したところに依れば、多くの地域でこれらの供給は豊富であり、あまり

高くもない。しかしながらアルティプラノに於てはこの点に関して非常に欠乏している。更にインデアンは長い間の根深い習慣に依り、乾燥肉、乾燥じやがいも、とうもろこしを生れつき好んでいる様に思われる。

總括すると、ボリビアの食生活に於ける質的欠陥はミルク及びミルク製品の低い消費、或いは多くの場合全くの欠乏に主に依るのである。この欠乏は特に子供の場合に深刻であり、幼児の死亡率が著るしく高い事にもよく現われている。次に深刻に欠乏しているものは一般的に、特にアルティプラノに於ける新鮮な野菜及び果実である。

住 居

主要都市に於ける公営住宅計画及び大規模鉱山会社に依つて供給される新しい労働者の住宅は当然要求されている。それらは可成り広々としたものである事、衛生設備、生活上の便益等について考慮を払いながらよく計画されている。これらの住宅はその需要を充たし始めない限り、一般に、客観的住宅及び生活水準をあげると云う教育的価値を持つてい

ると思つてもよいだろう。

都市、鉾山地帯、農村地帯のいずれに於てもその典型的住宅は西洋で受け入れられている様な健康及び体裁上の適度の要求をさえ遙かに満せないものである。熱帯及び亜熱帯地を除けば、一・二の部屋を持つアドービ煉瓦製の小屋である。この様な小屋は一般に窓、煙突、屋内暖房装置、排水設備、健康的な諸設備を欠いている。床は屢々固めた泥で、備へ付家具は数少く、又原始的なものである。しかしベッド、椅子、テーブル、ストーヴ等が次第に用いられようとしている。驚く程多数の家族がミシンを所有している。

ボリビアに於ける家屋標準を判断するに当つて、氣候及び古くからの習慣に考慮を向けるべきである。平原の氣候は熱帯的であり、アルティプラノでは日当りがよく、湿度が低い。料理、洗濯、その他多くの日常の家事は屋外で為され、家は殆んど睡眠と貯蔵所のみ用いられる。日常の衣食住生活に不便が多いという事は、その氣候的条件のため屋内生活を多く必要とする因に於ける場合よりそこではあまり鋭く感じられていない。

住宅建造費は相対的に低い。地方住民の労働力と材料とで建設出来るのである。家屋の

大きさを決定するに當つての主な制限要素はと云えば暖房という事であろう。夜は寒いのでストーヴのない家では大きな、人数の少ない部屋よりも、小さな、人数の多い部屋の方がより居心地がよいのである。同じ事は窓のない事を説明する場合にも同様である。現代的な家屋に於てさえも屢々窓は全くない。

屋内暖房装置のない事はアルティブラノに於ける燃料不足と密接な関係がある。それ故に低廉なオイルストーヴが紹介される事が家屋水準の改善に本質的な条件となるのであろう。同国固有の家屋は経済的にも、風雅さの点に於ても多くの利点を持つていと云う事は付け加えねばならないだろう。それ故ポルピアの特有な生活様式にあまり適さない外国から紹介された様式をそのまま受け入れるよりもむしろ昔から彼等の慣れている家屋を改善する試みがなされねばならない。

衣 服

アルティブラノの農村人口は衣服に關しては自給している。彼等は羊毛を生産し、これ

を紡ぎ、織り、且つ仕立てるのである。そして彼等は一般に文字通りぼろぼろになるまでこれを着古すのである。しかし非常に貧しい人々を除けば彼らは充分に健康的な衣服を身に着けているようである。土着民の衣服はその色が多彩で、非常に美しいものがあり、特に祭りの晴着は高価で屢々四、〇〇〇〜五、〇〇〇ポルピアも出さねば買えないものがある。辺境に住む人々は單なるぼろをまとつているとはいえ、都市や、鉱山社会では多数の人々が適当な装いをしている様に見える。国民の多数は裸足で歩行しており、これは低地に於いて十二指腸虫がよくある病氣とされている事に直接の影響を与えているものとして注意に価する慣習である。

消費の一般的傾向

栄養状態、住宅、衣服等の個々の水準に就て確実な判断を形成する為には、これら各項目に費やされる総支出額に対する割合を研究する事が必要である。栄養及び住宅の低水準は不十分な所得に依るのか或いは総収入のうち相対的に低い割合が必需品に向けられてい

るという事実に依るのかも、れない。家計調査がないため現行収入の非合理的支出がどの程度まで同国に於ける本質的消費の低水準を説明するものであるか決断を下す事は困難である。しかしここで或る一般の見解を述べてもよいであらう。

多くの未開な住民の間では彼等の支出計画に際して先ず慣習的祭礼や或いは半かば儀式的な目的を第一とすると云う事はよく知られている事である。生存の爲の或る最少限の必要が満されれば、過剰所得は（例えそれが借入で得たものであつても）娯楽及び各種の祭に費やされる。このような性質の支出様式が普及している限り、榮養及び住宅等の低水準は或る意味では説明されると云えよう。そしてこの様な習慣の様式を全体的に変えないでは国民の生活水準の向上は目指せないであらう。この様な非本質的支出の大部分は直接健康及び労働能率にとつて有害であるので——すでに低い実質賃銀を更に低下せしめる傾向を持つ——以上の論議は更に大きな力を持つのである。

この様な状態が或る制限内ではあるが広い地域に亘つて、特にポリビアの土民の間でよく見られる。二つの慣例が特に重要である。即ち祭礼とココの葉をかむ習慣である。或る

国家的及び宗教的休日に典型的な祭礼は出生、結婚、葬礼及び其他の家庭内に起る種々の出来事等の儀式に於ても同様行われる。これらはドラムやフルートの単調な音楽に合せて踊るダンスがその特徴となつており、この後では時には一週間或いはそれ以上も長く続く酒飲が始まるのである。女も子供もこれに加わり、日常生活（の課程）は全く中絶されるのである。この様な――表面的にのみキリスト教化された――飲み騒ぐ慣例の根源は明らかである。即ち祭りを行う義務はインデアの慣習に深く根ざしているのである。

この様な祭礼は日常家計に重い負担を課すものである。唯一回の祭りに要する費用は二〇、〇〇〇〜三〇、〇〇〇ポリアノに迄のぼると云われている。これらのための基金は貯金の引出し、土地の売却、労働者が鉱山を退職する際に得る一時金、或いは借金等の手段によつて得るのである。しかしかりに以上述べたような大きな支出は例外的なものであるとはいつても、結局より少額で、しかしより通常の支出があまり重要でないとは云えない。グレン・E・レオナルドは彼の著「ポリア地域の社会経済研究」サンタ・クルス”の中で次の様に述べている。即ち、安全で、気楽な生活を家族に一〇年間保証するだけ充

分な土地及び裝備品を買うに要する大金が大多数の家族によつて祭礼のために費やされて
いると云つても過言ではない。彼等はこれらの祭礼を非常に重要に考へているので、彼等
かこれに参加するため必要な金を得るために家畜の最後の一頭をまで売却すると云う事は
よくある事である。農場労働者に自分達の田畑を耕させている大地主達は、毎年この様な
場合には、住込の労働者家族に金を借さねばならない。『チユルバス』(カントン・チユル
バス、ボリビアのコチャバムバ谿谷に於ける社会経済研究、グレン・E・レオナルド著、
外国農業レポート 一九四八年七月二七日)の中で一家族当り一年間の食糧への平均支出
は四、三一八ボリビアノであつた。祭礼の際に多く消費されるアルコール飲料水——主に
チチャ——への支出は一、二五〇ボリビアノにのぼつており、これは食糧への支出の約三
〇%にあたつている。アルティブラノでは祭礼は少くとも大きな意味を持つていてとい
う事が指摘されている。

コカの葉をかむ事の生理上に及ぼす影響面が一九四九年秋にボリビア(及びペルー)を
訪問したコカの葉に関する合衆国の審問委員会の報告の中で最近詳細に対議されている。

ここではこの様な慣習の及ぼす経済的影響をのみ考察しているのでこれらの面（生理上の面）には注意を払う必要はないであらう。レオナルドのチユルバスに対する研究に依れば、アルコールの一、二五〇ポリビアノと比較してコカへの支出は二家族平均、一年に三五七ポリビアノと報告されている。アルティブラノでは平均支出はこれより遙かに大きい事は確かである。

祭札及びココカをかむ習慣を合せて考へて見ると、これらの事がポリビア国民の大部分の家計に深刻な失費の源となつている事は明らかである。それ故本質的な生活水準の低さは賃銀及び所得の低水準にのみ帰すべきではなく、現存資源の誤用にも帰すべきである事は明らかである。すでに指摘したように、この誤用は次の事情のためより深刻である。即ち、それは労働効率を減少せしめ、高度の欠勤怠業、それ故収入の一層の低下、等々を生じ、悪循環となるのである。

家庭生活の諸慣習も又一般の消費水準及び生活水準に直接及び間接に可成りの影きようを及ぼしている。形式的な結婚式は特にインデアンの間では屢々無しに済される。出産は

若年で始まり、出産率は女の出産可能期を通じて高い。出産率の高い事はそのまま一人当りの消費を減少せしめる結果となり、女に負担をかけ、たとえ不可能ではないにしても子供達に対して適当に注意を払う事を困難とする。高い出生率、貧困、健全な家庭生活の欠如、これらの相互関係がボリビアに於ける悲劇的と云える程高い幼児死亡率を充分説明するものである。家庭生活を健全にし、親の責任感を一般的に高める事より緊急の仕事はないように思われる。

一〇、外国貿易

製造製品及び食料品がボリビアによつて輸入される主要な項目であり、一方輸出品は鉱物が大半を占めている。

統計資料の利用出来る最近年の一九五二年の輸出額は一五二、〇〇〇、〇〇〇ドルと推

定されている。一九三八年以来輸出額は四倍以上に増大したが、輸入は三倍にしかかつていない。一九三八年には輸出額は三四、〇〇〇、〇〇〇ドル、輸入額は二九、〇〇〇、〇〇〇ドルであつた。輸出先は主に合衆国、英連邦であり、輸出額の推定五二パーセントは合衆国へ、四一パーセントは英連邦に向けられた。合衆国への輸出はボリビアの全輸出額の僅か六パーセントを占めるに過ぎなかつた。一九三七年以後は大幅に増大した。当時は英連邦が五六パーセント、ベルギーが二八パーセントを占めていた。合衆国への輸出は一九四九年には最高の六四パーセントに達している。

合衆国は又ボリビアの輸入品を供給する第一の国である。一九五〇年には共和国の輸入額の三九パーセントが合衆国から、一二パーセントがペルーから、六パーセントが英連邦から来た。一九三七年には合衆国は二八パーセントを、アルゼンチンは一三パーセントを、ペルーは二パーセントを、英連邦は八パーセントを供給していた。一九四九年には合衆国はボリビアの輸入の五二パーセントを供給しており、今迄ではこれがレコードである。

すずは一九三九年以来毎年同国の全輸出額の六〇パーセントを占めており、一九五〇年

にはその百分率は六四パーセントであつた。鉛は一九三七年の六パーセントに対して一九五〇年には九パーセントを占めた。銀の輸出は一九三七年の十パーセントから一九五〇年には五パーセントに減少している。

二一、運輸及び通信

ボリビアの鉄道組織は単線運行で約一、五〇〇マイル敷設されている。同国の最も重要な鉄道はチリのアントファガスタから始つて同国に入り高原地帯を南から北に經由してラ・パスに通じている。この鉄道は鉱石を運搬するために建設されたもので、その主な噸税は今でもこの資源によるものである。その他にはチリのアリカ、ペルーのモーレンドで大平洋と、ブエノスアイレスで大西洋と夫々ボリビアを結んでいる。同国には九つの鉄道があり、これらのすべては高原地帯を走つているか、或いはそこから始つている。しかし二つの鉄道が現在東部で建設中である。その一つはアルゼンチン鉄道網の東部に於ける終

着地であるヤクイバと、他の一つはバラグアイ河のブラジル港であるコルムバと連結されるであろう。サンタ・クルスが両鉄道の終着地である。

道 路

ボリビアは改良された道路が推定六、五〇〇マイルあり、これを一循するには一年間を要する。一、〇〇〇マイルを越える新道路が一九五三年初期に建設に着工された。これはコチャバムバとサンタ・クルス間の街道も含まれている。その一部を合衆国の輸出入銀行の基金によるこの道路は一九五三年か一九五四年に開通する計画であり、ボリビア西部の人口密度の高い地域と同国の豊沃な農業地帯とを結ぶであろう。パン・アメリカン会社による街道（八九七マイルの距離）は完成している。これはラ・パスを通つてペルー側南部国境からアルゼンチン境界地帯のスクレイに伸びている。

水 路

パラグアイ河(二、一五〇マイル航行可能)は同国の南東部に於ける主な出口である。その他の航行可能な川にはマモレー川、イテネス川、ベニ川がある。ビルコマヨ川、オルトン川、マードレ・ド・ディオス川は浅い吃水の船でなら航行可能である。英国の業者で運行されている五隻の蒸汽船はティティカカ湖上を定期に航行している。

空 路

ボリビアには四、五の航空会社があり、鉄道或いは道路のいずれをも利用出来ない多くの地域を連結している。ボリビア・ロイド航空会社は同国の多くの主要都市間を定期航空組織網で結んでいる。元来これはドイツ人所有の航空会社であつたが第二次世界大戦中に合衆国の業者に乗取られて、今ではパン・アメリカン航空会社と合併されている。三〇以上の飛行場が主にラ・パス、スクレイ、オルーロ、コチャバムバ、其他サンタ・クルス、サン・ボルハ、アポロ、トリニダシ、マグデレナ、グアヤラメルン、リベラルタ、コビハ等の遠隔地にある。パン・アメリカン・ギリシヤ航空会社及びブラニフ国際航空会社はい

ずれもラ・パス、合衆国間に定期機を出している。

通 信

政府によつて所有されているボリビア電話会社はラ・パス、コチャパムバ、オルロ、ポトシー、スクレイ及び其他多くの主要都市で運営されている。六〇〇人の住民に対して約一つの電話がある。共和国の各州は鉄道によつて所有されている二・三を除けば、政府によつて所有され運営されている電話線によつて結ばれている。国際無線組織網もある。放送局は二八の都市にある。ボリビア放送局は政府により所有され運営されている。しかし其他に若干の民間放送局がある。

一、二、通貨及び銀行

ボリビアノが通貨単位である。一九五三年初期には合衆国貨幣と六〇対一の価値を有し

ていた。主な流通貨幣は夫々一〇、二〇、五〇、一〇〇、一〇〇〇、五〇〇〇ポリビアノである。ポリビアは一九四一年に金本位制を棄て、為替統制が公式に翌年確立された。ポリビア政府所有の發券銀行である中央銀行が同国の銀行の中心をなすものである。同銀行は一六の支店を有しており、商業銀行としての機能も果している。

ポリビアの為替レート(ポリビア一ノ・一米ドル當り通貨)

| | |
|------|--------------|
| 一九三七 | 二〇・二〇 |
| 一九三八 | 三〇・四四 |
| 一九三九 | 三六・二〇一五〇・二五 |
| 一九四八 | 四二・〇〇一五六・〇五 |
| 一九四九 | 四二・〇〇一五六・〇五 |
| 一九五〇 | 四二・〇〇一一五・〇〇 |
| 一九五一 | 六〇・〇〇一一九〇・〇〇 |

| | |
|------|--------------|
| 一九五二 | 六〇・〇〇—一九〇・〇〇 |
| 一九五三 | 一九〇・〇〇 |
| 一九五四 | 一九〇・〇〇 |

一三、政 府

ボリビア共和国は一八二六年十一月一九日実施された憲法と共に一八二五年四月一六日
 發布された宣言書に基づいて建国された。第一二回目である現在の憲法は一九三八年に実
 施され、其後一九四四—一九四五年に大はばに改正されたものである。行政権は大統領に
 委ねられており、その選出に際しては、急を要する再選挙には適当でない国民投票による
 ものである。大統領は一〇人の大臣で構成された内閣を指名し、外国関係対処に際しての
 一般的統制を行う。上院及び下院で構成された両院はラ・パスで八月六日に毎年国会を開
 く。九つの州の各三名の上院議員はその三分の一は二年毎に改選されるが残り三分の二は

六年毎に改選される。下院は一〇五人の議員で構成されており、彼らの半数は二年毎に改選され残り半数は四年毎に改選される。司法権は国会によつて指名された一〇人で構成された最高裁判所、高等裁判所、及び地方裁判所に委ねられている。九つの州は夫々知事によつて管轄されている。

憲法によれば次の条件を有し公に登録された二一歳以上の全ての男子市民は投票権を有している。即ち、読み書きが出来る事、軍隊の義務を履行した事、定収入を有する事。パス・エステンソロ大統領下の政府の特別法に依り今まで市会選挙にのみ投票権を有していた婦人及び二一歳以上の全市民が現在では投票権を有するようになった。性、軍服務、財産所有等の全資格要求事項は撤回された。

一四、宗 教

共和国の公認宗教はローマ・カトリック教であるが其他の宗教もすべて認められてい

る。大司教が二人夫々スケレイ、ラ・パスにおり、司教は七人で、夫々コチャバムバ、サンタ・クルス、オルロロ、ポトシー、タリハ、コビハ、レイエスに在る。大統領は上院によつて提供されたリストの中から司教及び大司教を指名する事が出来る。届出結婚が義務とされており、離婚は一九三二年に通過した法律によつて許されている。

一五、教 育

教育は二〇世紀の前半中に可成り進歩した。しかし共和国は西部の比較的富裕な国の学校組織と比べるとその資金に欠けている。政府支援による学校は同国の各地に設立されている。これらの学校では教育は自由であり、七歳から一四歳迄の子供はすべて義務制である。文盲率は減少しているとはいへ、未だ高い。ボリビアの六つの大学の中で最も名高いものは南米各国で最もよく知られた大学の一つであるスケレイ大学である。其他の五つの大学はラ・パス、コチャバムバ、オルロロ、ポトシー、サンタ・クルスにある。其他に南

業学校、軍事学校、鉱山技術学校、土語学校、音楽学校等を含む若干の特別学校がある。

一六、防 衛

ボリビアでは一九歳から四五歳迄のすべての男子に徴兵制度が布かれていたが平和時には少数の軍隊のみが常設されているにすぎない。一九五三年には常備軍は大凡一〇、〇〇〇人であつた。

一七、歴 史

ボリビアの初期の文明に就いていえば、未だ議論の余地があるが、初期の文明はティティカカ湖が現在より広がつた頃、同湖の週辺で發展したと歴史家は現在では信じている。早魃期に湖は縮小した。この結果生じた経済的、社会的変動の爲文明は廢頽し、生き残つ

ていた住民は殆んど同湖上の島に住むようになった。西暦五〇〇年に一家族或いは數家族がこの湖島からペルーのトゥクルソ附近へと北に移住し、ここに彼らはインカ文明を創始した。この文明はコロムビアの南部、チリ及びアルゼンチンの半分以上、エクアドル、ペルー、ボリビアの大半を支配した。伝説に依れば次の様に語られている。ティティカカからの移住者達は一人の男とその妻マンコ・カバハ及びママ・オクロによつて支配されたが後に彼らの子孫は終に彼らの祖先の地に征服者、ダイナミックなインカ文明の代表者として帰つてきたのだと。この説にはギャップがあるが明かに次に述べる説よりも論理的に思われる。即ち、ティティカカ湖上のティアウアナコの南端に見られる大寺院の遺跡は西暦六〇〇年頃すでに發展した自分達自身の文明を持つて同地域に來た神秘的な高度の文化を持つた種族の手になるものであるという説である。この説に依れば、この文明は不明の理由に依つて滅びたといわれている。ティアウアナコの廢址とインカ建設、ティマラ語を話すインディアンとインカ族の間には夫々類似性がある。これらの事は密接な關係に基ずいて始めてよく説明されるものである。

ケチュア語を話すベルーのインカ族は西暦一二〇〇年頃ティティカカ湖地域に侵入し、一三二五年頃迄にポリビアの全域を支配した。同国はスペイン人が南米に来るまでインカ族の支配をうけていた。フランシスコ・ピサロによつて率いられたスペイン人は一五三二年にベルーに上陸し、六年後に彼らはポリビアを征服した。

一五三九年彼らは現在のスクレイであるチュキサカの都市を建設した。一五五九年迄にはベルーの副王領チャルカスとなつた。ポリビアは、一五四五年に於けるポトシーでの銀山の発見の爲この頃にはスペインにとつて非常に重要になつていた。

スペイン人の支配は非常に抑圧的だつたので暴動がすぐに南米に起り、叛乱は次ぎ次ぎにスペインの植民地を襲つた。革命への動きは他の如何なる国よりも早くポリビア(當時はチャルカスとして知られていたのだが)に訪れた。一六六一年にはラ・パスに、一七三〇年にはコチャバムバにメステイソス(主にスペイン人とインディアンとの混血)により、又一七七六年から一七八〇年にわたつてスクレイ、コチャバムバ、オルロロ、ラ・パスにインディアンに依り叛乱が起された。ポリビアの初期の愛国的指導者の一人ホセ・ドミン

ゴ・ムリッロは一八〇九年にラ・パスで叛亂を主導し、同市に反逆政府を確立した。しかしスペイン人は終にムリッロの軍隊を打ち敗かし、彼をラ・パスの中央広場で処刑した。この広場は今日ムリッロ広場と呼ばれている。彼は処刑台で死ぬ直前に、「私は何人も消す事の出来ない明りを燃したのだ」と叫んだと云われる。

チャルカスでは自由を求めての闘争が続いた。五人のランサ兄弟及び名高い婦人ファナ・アフルドゥイ・ドゥ・バディーラによつて率いられるゲリラによつて絶えず惱まされたといえ、スペイン人は彼らの権力を保持し続けた。一八一六年にはラテンアメリカの偉大な自由主義者シモン・ボリバールは自ら進んで従軍した。一八二四年から一八二五年に亘る戦役で、アントニオ・ドゥ・スケレイに依つて率いられるボリバールの軍はペルーのアイアクチョでスペインの軍隊を撃破し、チャルカスのチュキサカに進軍した。ボリバールはここで彼と合休した。チャルカスの独立は一八二五年に宣言され、ボリバール共和国と名づけられたが間もなく現在のボリビアに改称された。チュキサカの町はスケレイと呼ばれる様になつた。

ポリバアールは数カ月ポリビアに居留し、其間同国に最初の憲法を布告した。彼は彼の生国ヴェネズエラに向つて共和国を發つ時、ポリビアの初代大統領としてスクレイを任命した。しかしスクレイは僅か一八二八年迄大統領として留まつたにすぎなかつた。ベルー人がポリビアに侵入し彼を追放に処したからである。アンドレス・サンタ・クルスがスクレイの後継者としてポリビア国会により大統領に任命された。

サンタ・クルス元帥は活動的な大統領であつた。彼はベルーと通商条約を結び、彼の名で呼ばれる法令を發布し、又建國まもない共和国に秩序ある財政を打ちたてた。一八三五年彼はベルーの二徒党の争いを解決するために同国におもむいた。彼は一反對黨の指導者オーガステイン・ガマラを打倒し、一八三六年春にはベルーの平和を取戻した。彼は自分自身をベルーの保護者と名づけた。彼は明らかにポリビアとベルーを一つの國に合併しようとしたがチリの政府はこれにきびしく干渉した。ガマラ將軍の主張をバックとしてチリはベルーに軍隊を送つた。三年間に亘る戦役の後サンタ・クルスは遂に敗北し、一八三九年六月に追放された。ガマラはベルーの大統領になり、ヴェラスコ將軍はポリビアの臨

時首長となつた。しかしサンタ・クルス党はボリビアに強硬に居残り、間もなく新首長に
反旗をひるがえして成功した。ホセ・パリビアン將軍は首長に就任した。ガマラは一八四
五年にボリビアに戦宣を布告し、同国に侵入した。ラ・パスの郊外インゴワイで彼はボリ
ビア軍によつて敗北を余儀なくされ、彼自身も戦死した。パリビアンはヴァルパライソに
隠退した一八四八年迄大統領として留つた。彼の後にはマヌエル・ベルス將軍によつて受け
継がれた。比較的平和な時期にベルスは農業、工業、商業を促進させることに努めた。彼
の後にはホルジェ・コルドバ將軍に依つて一八五七年受け継がれたが、彼は翌年ホセ・マリ
ア・リナレスに依つて黜けられた。しかし彼も又一八六一年に同じ運命をたどり、ホセ・
M・ドゥ・アーチャ博士が大統領に選出された。ホセ・マリアノ・メルガレホに依つて率
いられた陸軍に依る最初の反乱は一八六五年に勃發した。大統領アーチャの軍隊はボトシ
ー附近で戦鬪に破れ、メルガレホが大統領に任命された。一八七一年に大統領として一
年間就任したオーガステン・モラレス大佐によつて率いられた反乱のためメルガレホは
追放された。彼の後は一八七四年の死迄就任した前大統領の息子アドルフオ・パリビアン

大佐によつて継がれた。その後はヒラリオン・ダサ將軍が同國の大統領に就任した一八七六年迄トーマス・フリアスが大統領の任に當つた。このころになるとボリビアもペルーもチリとの争いに巻き込まれる様になつた。硝酸加里がコビハ及びタルパボカ等のボリビア領土及びペルー領内にも発見されており、英國及びチリはこれらの価値ある財産を發掘する權利を獲得しようとし、それに伴う争いはこうじていつた。チリの軍隊はアントファガスタを攻撃し、ボリビア、ペルー間の戦争及び、ボリビア、チリ間の戦争は一八七九年始まつた。チリ軍は大勝を得て、一八八三年一二月にチリと平和條約を結んだ。これによりボリビアは同國の海岸地方全域をチリの領有にする事を認めざるを得なかつた。

ボリビア、チリ戦争中、これは屢々硝酸塩戦争と云われるのだが、ナルシソ・カムペロ將軍はボリビアの大統領となつた。カムペロは一九三八年迄効力を發した一八八〇年制定の新憲法を公式表示するよう命じた。彼の後は一八八四年に鉱山所有者グレゴリオ・パチエコ博士によつて受け継がれた。一八八八年から一八九二年迄アニセト・アルセ、一八九六年迄マリانو・パウティスタ博士、その後はセペーロ・アロンソ博士が夫々大統領の任

に就いた。

一八九八年より一八九九年迄の二年間にスクレイのみを唯一の首都とするか、ラ・パス或いは何処かの他の都市でも政治的機能を働かすべきかの問題について論争が激しく戦わされた。スクレイ派は敗北し、以後多くの政府の諸機能はラ・パスに集つた。ホセ・バンドー大佐は首都問題に關する論争の結果として反対を受ける事もなく大統領に選出された。任期中彼はチリ及びブラジルとの二つの困難な国境問題を解決せねばならなかつた。

ブラジルとの交渉は外交手段に依つて平和的に解決され、一九〇三年一月条約の調印をみた。一九〇五年バンドーの後継者イスマエル・モンテス大統領はチリとの間に条約を結んだ。これに依りポリビアは同国の太平洋沿岸領域の全部をチリに割譲し、其後海岸地帯を所有しない事に同意した。しかしながらチリは太平洋岸のアリカからラ・パスへの鉄道建設費用を負担し、チリ領土を通過して海岸都市に自由に交通するべくポリビア人に許す事に同意した。更にチリはポリビアに現金による賠償を支払い、其他必要な鉄道建設の爲に附加的に財政援助を貸与する事にも同意した。

一九〇九年に大統領モンテスは退官し、エリオドロ・ヴィラソンによつて後継されたが、モンテスは一九一三年に再選され、四年間任期を務めた。この二人の指導者の統治中、ボリビアの發展は目ざましかった。

第一次世界大戦はボリビアの貿易に可成りの影きようを与えた。輸入は減少したが、輸出（これは主に鉱物であるが）は非常に増加した。ボリビアは一九一四年中立を宣言したが、一九一七年四月三日、ドイツ潜水艦が中立海域で、ボリビアの一牧師を乗せてベルリンに向かう船に水雷を發射した事からドイツ、ボリビア間の外交関係は破れた。ボリビアは戦争には直接参加しなかつたが、同国の資源は同盟軍に投じられた。同国はヴェルサイユ會議に代表を送り、一九一九年平和條約に調印した。共和国は國際連盟への当初からの加盟国である。

モンテス大統領は一九一七年九月六日再び任を辞し、元の大蔵大臣、ホセ・グティエレス・グエラがこれを後継した。一九二〇年、パウティスタ・サアヴェドラ博士は大統領になつた。彼の任期中、一九二四年から一九二五年にかけての政治的不穩期を除けば同国の

經濟狀態は繁榮し続けた。一九二六年にはエルナンド・シレスが大統領に就任した。

一九二七年、ボリビア、パラグアイ兩國はグラン・チャコ地域に於ける兩國の國境問題紛争解決の爲交渉を再開したがこれらの交渉は失敗した。一九二八年に始まり隨時起つた武器に依る衝突は一九三二年に大規模な戰爭に進展した。この戰爭は三年間継続し、自然的にも、經濟的にもボリビアを疲弊させた。休戰條約は遂に一九三五年六月に結ばれたが最終的解決は一九三八年七月迄待たねばならなかつた。

いわゆるチャコ戰爭中ボリビアは頻繁な政治的變動を堪えねばならなかつた。一九二九年の經濟的不況が始まるとすず及び其他の金屬の價格は暴落し、鋳山は閉鎖され同國は窮地に陥つた。一九三一年には世界市場に於けるすずの價格は更に三分の一だけ低落した。歳入は減少し、一九三二年にはその利子が全國庫歳入より多くなり、外國債の支払は中止された。

大きな損失を与えたチャコ戰爭に次いで起つた不穩な狀態はボリビアの發展の欠如及び工業、農業に広汎な封建組織に対する広がりゆく不満の中で深刻化していった。憤懣の多

くはバティーニヨ家、アルマヨ家、オチスチャイルド家等の主要錫鉱山所有者、ロスカと云われる軍指導者及び富裕な地主達に向けられていつた。この様な感情から二つの政党、左派革命党（或いはP I R）及び国民革命運動党（或いはM N R）が生れた。これらの政党は其後のポリビエ現代史に大きな形きようを及ぼす事になつた。M N R党は國家主義的傾向が強く、P I R党は國際主義的傾向を有していた。これら二党はいずれも共產主義、ナチズム、ファシズムに共通した考えを有し、且つ民主主義の理想にも共感を有していた。

シレス政府は一九三〇年に倒れ、翌年ダニエル・サラマンカ博士が選出された。深刻な經濟的窮乏と軍隊の反乱の中で軍により率いられたクーデターが起り、大統領サラマンカは打倒され、副大統領、ルイス・テハダソルサノが一九三四年一月大統領になつた。ところが彼も又國家社會主義を主張し、憲法を中止したダヴィド・トーロー大佐によつて一九三六年追放された。一九三七年七月、三三歳の陸軍士官ヘルマン・ブッシュはトーローを倒して一九三八年制定された新憲法下で立憲政治に基ずいた大統領となつた。しかしブッシュの権力は短期間しか続かず、数人のすず王との激しい論争を含む多くの困難な問題

に対決した後一九三九年自殺を遂げた。この後は陸軍司令官カルロス・クインタニラに依つて受け継がれた。彼は一九四〇年四月エンリケ・ペニャランダ將軍に依つて受け継がれる迄任に當つた。ペニャランダは深刻な内部の不穩状態にあり、革命的威嚇を繰り返した。彼は在任中軍隊力のみを頼つた。一九四二年一月二〇日、ストライキ中の鉱山労働者大虐殺がカタヴィ地方に起つた。この様な刑罰に対する反動は非常に強く、多くの若い陸軍士官は官を辞した。ペニャランダはMNRの主導する反乱により追放された。

ペニャランダは同国を去り、その後は陸軍少佐グアルベルト・ヴィラロエルに依つて受け継がれた。合衆国政府はこの新政府を輕視し、國務省は次の様な結論に達した。即ち、革命は枢軸側に賛意的で、ボリビアを枢軸側に引き入れようとする人々によつて動かされている。実際に、ヴィラロエルは同盟側に強く賛意を表し、同盟側の勝利を信じていた。政府はいかなる外国勢力の影きようも受けておらず、非常に国家主義的であり、すず王及びロスカと折合いが悪かつた。

更に一九四三年六月の選挙で明らかとなつた如く国民の支持を得ていた。即ちMNRが

国会の選挙で勝つたのである。

新制度は労働条件、家屋条件を改善する事を目的とした立法を制定した。これを実施し、大衆の生活水準を改善させようとして、政府はバティーニョ、アラマーヨ、オチスチャイルド等のグループと激しい衝突を起した。これらが政府に対する影きようは大きく、分裂を惹き起した。事態を安定化しようとして厳しい方法がとられたが、不安は増加した。陸軍の反乱が一九四六年六月に起つた。これはちん庄されたがその後すぐ七月に再び反乱が起つた。この時は反乱軍は成功を収め、ヴィラロエルは暴徒の主導者によつて切首された。報告に依ればこの事件は共産主義者の煽動によるものと云われている。結局彼は精神力のある、愛国的な人間と見做してよいであらう。

ヴィラロエルの死後、徒党が権力を伸し、このグループから法律家で弁護士であるトーマスモンベ・グティエレスが抬頭し大統領の任に當つた。一九四七年一月選挙が行われ、チャコ戦争中、軍務大臣であつた軍医のエンリク・ヘルツォグが大統領となつた。この選挙に際してMNRは候補者を立てる事が出来ず、約六、〇〇〇の政治指導者は追放された。

MNR及び政府に反対した其他の分子は多くの支持者を得て、ヘルツォーグによる統治の困難は昂じた。彼らは根深くつぎのように主張していた、ロスカヤ特にパティニーニョ家、アラマーヨ家、オチスチャイルド家等のすず王を含む富裕で有力な人々は大衆の福祉に関心がないと。改革やその実行を妨害する為に、すずの利害関係が国内問題に干渉して来た。と云う実例は国民に依つてよく知られていた。すず鉱山の所有者達は彼等の富の多くを海外に運んでおり、ボリビア国外で多くを過していた。パティニーニョ家繁栄の建設者であり、インディアン混血のシモン・パティニーニョは三、〇〇〇万ドルでボリビアに三つの宮殿を建設した。彼は長期間海外に住み二つの宮殿は遂に見なかつた。ボリビアの国民はヘルツォーグ政府がすずの利害関係者に依つて支配されていると信じた。一九四九年、ボリビアに内乱が勃発した。

ヘルツォーグは表面上は健康上の理由で隠退し、副大統領マメルト・ウリオラ・ゴイティアに政権を譲つた。後者は総選挙を召集し、これは一九五一年春に施行された。ヴィラロエル政府の大蔵大臣であつたヴィクター・パス・エステンソロはMNRの大統

候補者であつた。其他四人の候補者が立つたが早期に復帰した其他の候補者をリードした。彼の勢力は非常に大きかつたので、政府当局は開票を延期した。憲法下に行われる選挙に必要な投票総数の過半数をバス・エステンソロが獲得するのを恐れたからである。事實彼は必要な過半数以上を獲得したが得票数は数えられず再び徒党が権力を得た。其後間もなく陸軍将校ウーゴ・バリヴィアン將軍が大統領となつた。

一九五一年四月に、バリヴィアンは叛乱により官職から追放され、その結果、合法的に選出された大統領バス・エステンソロが就任した。其後間もなく、新政府はパティーニョ家、アラマーヨ家、オチスチャイルド家に属する鉱山の利益を国有化する意思を表示した。一九五二年一〇月三日これらの財産は国有化された。しかし政府は又次の事も告示した。即ち其他の私有財産はその所有を認め、且つ国有化された鉱山の株式を所有している合衆国市民には補償を与えると言ふ事である。バス・エステンソロ政府は又共産主義に対する闘争に於て合衆国と明確に同じ方針をとる事になり、ボリビアを現代国家にする計画を進める事に努めている。一九五五年エステンソロは任期満了し副大統領シーレスと交替した。

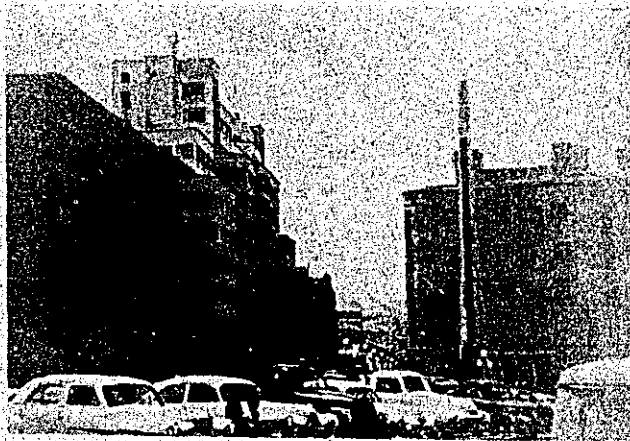
一八、都 市

ラ・パス

世界で一番高地にある首都ラパスは海拔一二、四〇〇フィートの高さであり、盆地或いは深い谿谷状をなしている。市の北東端は高原地帯より一、五〇〇フィート低くなつてゐる。スペイン人が高原の冷風を避ける事を主な理由としてこの風変りな場所を都市に選んだのは一五四八年一〇月二十日であつた。平均気温は華氏五〇度であるが、日によつて気温の差は大きく、又夜は寒い。同国を訪れる人は最初その稀薄な空気のため多少不快な思ひをするであらう。この町では消防隊なしで過せる程空気は酸素を含む割合が少いのである。人口は約三五〇、〇〇〇人で、その半数はインデアンである。

その本流が東部山脈を貫流し、皆つてティティカカ湖及びポオボ湖にそそいでいた支流

を合流しているラ・バス川は同市を流れている。深い豁谷と同方向に走る長い街路は多少平坦であるが、これらの街路から高地に向つて走る路は屢々険しい。このためラ・バスの住民は大股で道路をおりている。生粋のインデアンは高地に住んでおり、其他はこれより低い地域に住み、それより更に低地には商業地域、政庁、レストラン、大学等がある。富裕階級の住宅街は依然として低地にあり、ソボカチからオブラーゲの谷床へと一、〇〇フィートの低地を六マイルに亘つて拡がつている。



ラ・バス市

植民地時代の建物はあまり残っていない。建物の多くは生子鋸と、屋根には赤タイルを用いてある現代的なものであり、摩天楼まがいのものもいくつかある。同市にはサン・フランシスコと呼ばれる美しい教会やボラードと呼ばれる美しい大通りがある。

ムリーリョ広場は川の北東部にあり、同市の生活の中心となつている。広場の周囲には巨大な大伽藍（現代的なもの）、一九四六年の革命時にうけた小銃弾の跡が未だに残つている大統領の邸宅、立法院、ラ・バス集会所等がある。又いくつかのホテルも近接している。広場を過ぎて走る交叉道路は商店街と呼ばれ、商店の多くはここに集つている。市場街から二、三区割離れた所に中央市場があり、絵の様に種々雑多な商人や食糧品が見られる。女達は派手なショールと、大多数がポリエーラかスカートを着けて、囁れ声を出して売店を商なつている。彼女等の黒い頭髪は辮髪にまとめられ、その上に固い縁どりのある茶色の帽子をかぶつている。

散策地は川向こうの市の一隅にある。七月一六日街はポリバールの像のあるヴェネズエラ広場から、スクレイの像及びティウアナコの廢墟から見出された一本石のあるローマ

広場へと走っている。古代の遺物を集蒐してある国立博物館、又の名をティファウアナコ博物館は散策地の近くにある。ローマ広場を少し離れた所にモンティクロー・ドゥ・ソボカチと呼ばれる高台があり、ここから見渡せる町及び周囲の山の眺めはすばらしい。

ヴェネズエラ広場からレ

クレオ通りを行くとサン・

フランシスコ広場のサン・

フランシスコ教会及び修道

院に着く事が出来る。これ

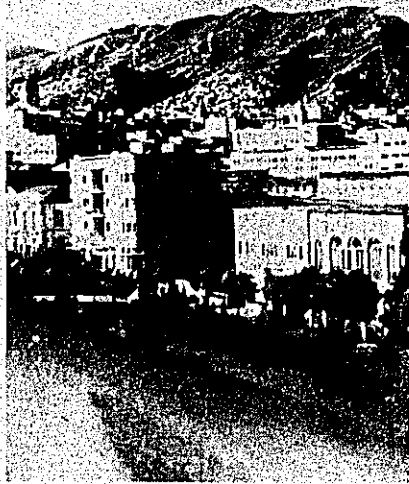
らに見る価値のあるもので

ある。この広場の内部及び

周辺でインデアンの定期市

場が毎日旺に開かれる。特

に印象的なのは謝肉祭の前



ラ・パス市

に、一月二四日から二九日迄開かれるアラシタス市場である。

小商店の立ち並んだサガルナガ街はサン・フランシスコ広場から南西へと走っており、この各商店は同国を訪れる人々のために、主に新古美術品を扱っている。

バスでラ・パスから一時間余り行くと、一年中を通じてのスキー場チャカルタヤ山に行く事が出来る。このスキー場の滑走路は一七、〇〇〇フィート以上の所で始っており、これは世界で一番高いものとされている。マリアシーリヤにあるゴルフクラブはこれと同じ特異性を持つている。イビコクラブの競走場は同市の東部に当るミラフロレスにある。

コチャバムバ

ボリビアで第二に大きな都市コチャバムバは人口八〇、〇〇〇、海拔僅か八、〇〇〇フィート、年平均気温華氏六六度の市である。氣候に關する限り、同国で最も住み心地のよい市である。幾つかの小さな郡区の散在するコチャバムバ盆地は同国で最大の小麦及び果実の生産地である。これら郡区の中で最も興味ある町はキリヤコロヨであり、その他に、

近くにすず王シモンパティーンの邸のある
ウイントもある。そこを訪れる事は屢
々許されている。鉄道はコチャバムバか
らブナタ谿谷を通つてアラニ迄三七マ
イル延びている。コチャバムバ全体に就
て云えば、そこは美しい建物のある高原
の都市であるが、観光客が訪れる事は少
い。又国内航空事業の中心地でもある。
舗装された本道は現在サンタ・クルスに
迄布設されつつあり、これは一九五五年
迄に完成する見込である。

オロロの南部では鉄道が長さ五五マ
イル、幅三〇マイル以上のポオボ湖を囲



コチャバムバ市

んでいる。この鉄道の近くにはフアーリと呼ばれる全く感じの悪い小村落があるが、一年に一度復活祭週間後一四日間有名な市場がここで開かれる。この市場の参与者は古くから云われているあの「対照的なあきない方」をしている。彼らはアルゼンチンパンパを含む遠隔地からロバやリヤマに乗つてやつてくるのである。

ムラトス川に交叉する地点から一支線がポトシー（一〇八マイル）及びスクレイへと東の方へ走つている。ポトシー辺は世界で最も高地に位するメートル軌道鉄道の一つで九時間半で行く事が出来る。困難な技術を要するこの軌道は世界の鉄道の中で二番目に高地に位するコンドル地点で一五、七〇五フィートの高さに達している。

ポトシー

四〇、〇〇〇の人口を持つポトシーは一三、三四〇フィートの高さに在り、ラ・パスよりも高地である。気候は屢々厳しい寒さが訪れ、冬には殆んどその気温は華氏三度から四五度を上下する。同市はセロ・リコ丘の麓にあるのだが、スペイン人がこの丘を発見した

のち、一五四五年一〇月一〇日に建設された。かつてはこの丘から多量の銀が採掘されたものである。一七世紀初期には同市の人口は一五〇、〇〇〇人であったが、二世紀後にはその鉱脈が荒廢し始め、銀はペルー、メキシコですでに發見されていたので同市は廢れた町にすぎなくなつた。同市を再び比較的繁榮した町に復活させたのはスペイン人が無視していた金屬、即ちすずに対する要求である。

ポトシー地域は今でも曲りくねつた、狭い通りや、又門口に紋章のある宏大な邸宅が所々にあり、植民地的である。中央広場である一月一〇日広場の周りには同市で最上の建物が幾つか集つている。古い會議所及び王室財宝庫はここにあるが、いずれも他の利用に供せられている。大伽藍がこの広場に面しており、又近くには造幣局がある。これは充分見るに値するものである。三〇ある教会の多くはルネッサンス及びロマネスク建築をよく代表しているものである。

スクレイ

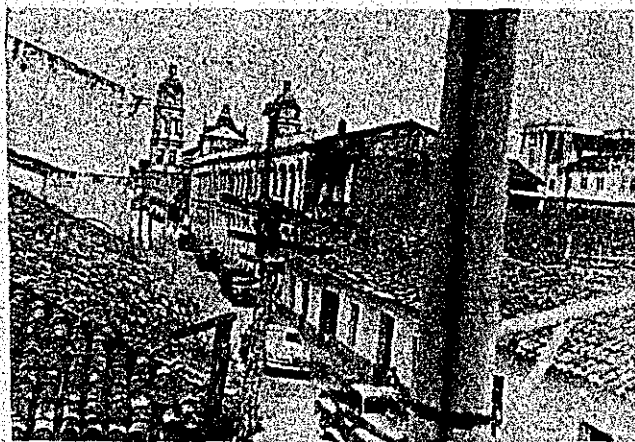
ボリビアの法定上の首都スクレイはポトシーから一〇五マイル離れており、鉄道でも、或いは道路にそつても行く事が出来る。八、五三二フィートの高さに在る都市で温暖である（平均気温は華氏六一度であるが一月から二月には時々七五度に昇り、又六月には四五度まで降る事もある）。人口は約三二、〇〇〇人とされている。

スクレイは一五三八年に建設された。ポトシーからの鉄道が長い間建設されなかつたので、山の中に長期間孤立状態となり、その為同市は或上品な魅力を持つようになつた。町を交又している四つの小川には心地よい橋がかけられ、町に見られる建物は印象的である。これらの中には同国の独立宣言文が調印された場所である立法院、司法裁判所である現代的な聖ドミンゴ、現代的な国会議事堂、一七世紀の美しい大伽藍、宗教法院、フニン大学等がある。スクレイ大学は一六二四年に創立された。

サンタクルス

サンタクルスは東部山脈の東方に広く、殆んど未開發のままに残された山地にあり、ア

ルゼンチンやパラグアイへの古い交易路の通つているコチャパムバから一九二マイル東にある。海拔僅か一、四二〇フィートで、気候は暑い。西部への交通路は著るしく貧弱であるが現在二線の鉄道がその方面に附設され中である。そのうち一つはアルゼンチン国境上であり、アルゼンチン鉄道の終着地であるヤクイバから出ており、他の一つはブラジルのパラグアイ川上のコルムバ港から出ている。後者は一九五四年一月に公式に開通した。これらが二線とも開通すれば孤立状態はなくなる



サンタ・クルス市の一部——近來頗る眼盛を極めており、州農産物の集散地である。

であろう。今日では、この町は飛行機で行くのが最も便利である。人口は約三〇、〇〇〇人である。

サンタ・クルス、コチャバムバ間に、輸出入銀行の保証のもとに新舗装道路を現在建設中であり、その両端はすでに一部完成している。これが完成すればサンタ・クルスの農業地帯は消費地への活路を見出す事になるであろう。

一九、東部ポリビアの日本人入植地

(以下の記述は本年六月コチャ協同組合の機関誌「農業と協同」上に掲載された斎藤広志氏の記事および本年八月サン・フアン入植地を訪問した天野芳太郎氏の通信によるものである。)

サンタ・クルス地方

ふつう東部ポリビアとよばれる地域は、サンタ・クルスおよびベニ両州に隣接の諸州の

一部を加え、その面積は約七五万平方キロ（サンパウロ州の約三倍にあたる）と概算される。このうち、サンタ・クルス州のみで三五万平方キロを占める。人口きわめて稀薄で、

| 月 | 最高平均 C | 最低平均 C |
|----|-----------|-----------|
| 1 | 30.9 | 21.3 |
| 2 | 30.5 | 20.9 |
| 3 | 29.9 | 20.1 |
| 4 | 28.8 | 17.9 |
| 5 | 26.1 | 16.2 |
| 6 | 24.3 | 15.6 |
| 7 | 23.3 | 14.4 |
| 8 | 28.3 | 15.8 |
| 9 | 30.1 | 17.0 |
| 10 | 30.7 | 18.6 |
| 11 | 31.1 | 19.9 |
| 12 | 30.9 | 20.7 |

| 月 | 雨量 (mm) |
|----|------------|
| 1 | 188 |
| 2 | 171 |
| 3 | 162 |
| 4 | 89 |
| 5 | 81 |
| 6 | 85 |
| 7 | 50 |
| 8 | 40 |
| 9 | 76 |
| 10 | 115 |
| 11 | 125 |
| 12 | 192 |
| 計 | 1,376 |

サンタ・クルス州では地形はおおむね平坦で高山というものはない。地味は相当の肥沃

りである。これだけの地域に僅か四〇万の住民が分布している。過去、三百年間に外部からの移住はなかつたから、ほとんど自然増加の結果である。気候はマット・グロソソ州のそれに似ていて、かなり暑い。サンタ・クルスにおける最近二〇年間の気温は上表の通りである。

降雨からいうと、十月から三月までが雨期、四月から九月までが乾期で、その年間分布は大体上の通りである。

地から不毛に近い半沙漠にいたるまでいろいろだが、大体において森林が六〇%、パンパ（草原）が四〇%を占める。このパンパのまた五〇%はパンパ・フランカとよばれ、白砂で牧草に乏しく、牛馬の放牧にすら堪えないといわれる。

この地帯の農業は幼稚である。農具と言えば、フアッコン（大ナイフ）、マシャード（斧）、フォイセ（長鎌）、それにエンシャーダ（くわ）を加えて四種の道具ですべてを片付ける焼畑農業である。農法も農具も過去三世紀のあいだ、殆んど進歩のあとは見られない。農場の大きさからいうと五千以上一万ヘクタールもの大農場が多く、農場主は白人で、労働者はインディオ系である。革命政府による農地改革もこのサンタ・クルス地方にあつては、ア ندス高原のようにには実行されないらしい。依然として未開発の地域は、大農場主の掌中に収められている。

経済的な発達を妨げている最大の原因は何といつても交通の不便ということであろう。

マット・グロッソ州のコロンバリー市からサンタ・クルスへと、ブラジル・ボリビア鉄道は一九五四年に開通したものの、六百キロの距離をまる四昼夜もかかる輸送力では、到底サ

ン・タクルス地方の物産を捌き得ない。仮りにこの鉄道輸送が能率的であるとしてもサンパウロまで搬出するには二千余キロを運ばねばならぬ。サンタ・クルスからコチャパンバまでの距離は五二五キロ、フンデスの裾を縫つてトラック道路があるが、乾期なら二日から四日、雨期には十日乃至十五日を要する。

農 産 物

農産物としては、サトウキビ、米、とうもろこし、マンジョカイなどが主作物となっている。サトウキビは、おもに大農場で栽培され、農場内の砂糖工場で糖蜜や黒砂糖を製造し、農場内の消費に余つたものはサンタ・クルスの町に売る。最近では黒砂糖の製造のときに出る甘蔗の搾汁からビンガ（焼酎）を製造している。

稲もほとんど農家が作付する。大農場では動力に依る脱穀、精米を行っているところもあるが労働者や小農家は立臼で搗く。この外、とうもろこし、マンデオカなどもほとんど農場で栽培され、自家消費にあてられる。とくに下層労働者は、マンデオカと、とうも

ろこしを雑炊のように調理したスープが常食となつている。

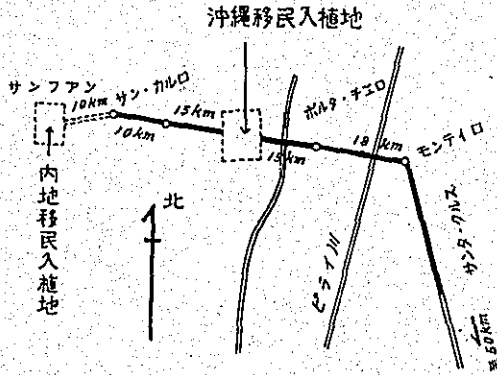
コーヒーやカカオの栽植もあるが極めて小規模にすぎず、これも地方消費の域を出ない。要するに、サンタ・クルス周辺の農耕はほとんど農場を単位とした自給自足農業の域を出ず、わずかに農産物の一部がサンタ・クルスの町に搬出され、農村住民の現金収入源となつているにすぎない。しかもこの限られた現金収入は布類、食塩、燈油などと交換されるから、現金や商品の流通は微々たるものといわねばならない。

サンタ・クルス市の近接地域には町の市場を対象として、野菜、果樹などを作つている小農場地帯があるが、これは町が小さいだけにさして重要性がない。

戦後の日本人の入植

一九五四年沖繩軍政府の肝入りで、沖繩より移住者がこのサンタ・クルス地方に移住した。現在までに約一五〇家族が入植しているが、現地での受入れは、アメリカのポインント・フォア当局が責任者となつている。これら新移住者の群に混つて、ペルーからポリビアへ

サンタ・クルス地方の日本人入植地



再移住をした沖縄旧移住者の数家族が同じ植民地に入植している。

入植地は上図にみるように、近いところでもサンタ・クルスの町から七〇軒を距てている。更に沖縄よりの移住者よりも奥の方、サンタ・クルスから百余キロの地点に内地よりの移住者十五家族が在住する。沖縄よりの移住者は第一陣二六〇名が一九五四年六月に現地到着、第二陣一四〇名が同年七月着、第三陣一二〇名が一九五五年十二月着、合せて五六〇名である。

入植の当初、一九五四年十一月に熱病が発生をみたので、一九五五年六月には初めの入

植地を棄てて現在のところに移動した。現在は米、フェジョン豆、マンチオカ芋などを主作としている。他にキウリその他の野菜ものも作っている。アメリカのポイント・フォア当局の計画では、入植地に製糖工場を作つたり、搾油工場を設ける予定であつたが、まだ実現しない。この沖繩からの移住者のために、ポイント・フォアでは八〇万ドルの予算を投じ現在までに約五〇万ドルを使つたといわれる。

主作である稲作は、一戸当り約四・五ヘクタール、そしてヘクタール当りの収穫は粗一七〇アローバ、このうち九〇アローバを自家消費用として、残余を販売する。但しポリビアのアローバは十一・五キロである。

自家消費米は、ピローン白で搗いて食する。

ポイントフォアから毎月少額の生活補助金が支給され、これで粉、マカロニ、肉などを購入するから、米の自給ができれば、いまのところ食べるだけなら生活の心配はない。

ただ熱病発生のもと、健康状態はわりに良く、アミーバが出てても簡単に治るし、あとは子供の風邪や下痢ぐらいのもの。住家は椰子の葉葺き、丸木壁の仮小屋を建てている。飲

料水は井戸を掘っている者もあるが、大部分は河水を利用する。衣服類は本国から携行したものがまだ残っており、医薬品はブラジルの同胞から贈られたものを使用している。

これらの沖繩よりの移住者の入植地よりも遠方、サンタ・クルスからは約一二〇キロの地点サンファンに内地よりの移住者十五家族八十七名が一九五五年七月三十日到着した。本年八月このサンファン入植地を訪問した天野芳太郎氏よりの通信では最近の状況を左の通り伝えている。

「現地では森の中に入つて行つて作業地を見てもわり、また馬をかりて付近を調べて歩きました。アメリカ人が手で開墾しているといつたとおり、斧と鍬だけでやつています。夜は皆さんが集つて来たので、おそくまで懇談しました。また各自の意見も承わることができました。(別紙要諦事項を御参照下さい。)

何よりもうれしかつたことは立地条件が悪かつたことに少しも苦情を言わず、むしろ感謝して前途に希望をもつて働いているということでした。女の方などは顔や手首をブヨに食われてゴマをふつたように斑点ができている人がありましたが、こんなよい所へ来てし

あわせだといつておりました。私はこの植民地は成功すると見ました。現在一人の病人もなく飲料水は河の水をこしもせずに飲み、家の周囲には下水も掘らず、不潔にしてもそのために蚊がわいたがマラリヤにかかった者もありません。皆のいうところは一致して健康地だということでした。』

ボリビア第一回入植者からの要望事項

一、後続移住者に対する注意

日本ではボリビアは暑いと思つているが、日本の夏よりずっと凌ぎよく、南風が吹けば、盛夏でも急に寒くなる(但しこれが健康に非常によい)。そこで後から来る人は冬物を用意してこること、毛布は何時でも出せるよう旅行の途中持参していること、布団は綿など抜かずそのまま送ること、しかし蚊帳は是非必要である。また戦時中南方へ行つた日本人の服装のような開襟、半袖、半ズボンの服装は絶対禁物である。シャツもズボンも皆長いものがよるしく、就中シャツは作業衣となるようなゴツゴツした丈夫なものに限る。こち

らで家を建てるには一本の釘も一本のカスガイも要らぬ。釘を持参するとせば箱や家具用にする小さいものでよろしい。将来植民地が百五十家族から二百家族の部落になると考えて、その中に左の順で一人づつの専門家を加えて貰いたい。養鶏、養豚、その他畜産の経験家、川漁の経験家、大工、左官、煉瓦、瓦の職人など。地下足袋、ズック靴、ゴム底（主として子供用）、ゴムぞおり、ゴム長靴（半靴も必要）、衣服用の布類、野菜種子（大根、ねぎ、玉ねぎ、ごぼう、その他）、乾燥した海藻類（主として昆布、わかめ等）、毒蛇血精注射薬等は後続者自身の必要量以上に持参して、先發隊の人々に売つて貰いたい。

二、設備して貰いたいもの

発電機（小型）本部のあるところ、集会所、病院、学校だけに使用する。特に学校には電燈がなければ文化的な教育が出来ない。これは特に至急お願いしたい。精米機、粃すり機、現在あるものは小さ過ぎる。十馬力の石油發動機を備えて、それで仕事をしたい。製材用丸鋸附属品一式、動力は十馬力發動機から取る（しらべ革によつて）。

三、出来るだけ早く知りたいもの

後続者の受入態勢を決める都合上、何月に現地につくかを知りたい。今年なら十一月中につかなければ雨期になつて入植は困難、来年なら五月からでないかと乾季にはいけない。

また何家族来るか人数も知りたい。もし出来たら資金さえあれば、一家族に一町歩づつあたるよう今から現地人を雇つて開墾して置き、米を蒔きつけて、新入植者の初年度の食糧を確保してやりたい。

四、唯今直ぐほしいもの

新聞、雑誌、新聞は公使館で読みふるしのもの至急御贈与に預りたい。雑誌は、大人、子供用でこれは日本からお取寄せを願いたい。

五、交通に関する要望

サンファン植民地の悩みは交通不便な点である。植民地からヤバカニ街道まで、二軒の道路をポイント・フォアにつけて貰えないでしょうか。また、トラクター一基を貸して貰けないものでしょうか。これは耕作に使用すると同時に、サンカルロスまでの雨季の交通用にあてる。これがないと、もし急病人でもあつた際はみすみす見殺しになつて終う。植

民地には医者もほしいがそれは後のことで、差当りトラクターをお願いしたい。

サンタ・クルス町の日本人

市内に在住する日本人はほとんど沖繩出身者である。それも初めペルーに入国し、それから各地を移動してこの地方に定着した人達が多い。また、日本人に対して圧迫の強いペルーに厭気がさして、戦後サンタ・クルスに移つた人達は、いづれも何がしかの資本を持つてきたので、小さな工場や商店を經營している。職業別にみると雜貨商二名、ピスコ(焼酎)製造一名、運搬業一名、酒場經營一名、小農園經營七名、床屋一名、傭人一名となつてゐる。

ペルー下りの人で、各地を転々とするうちにインディアン系の現地女を妻とし、生活も全くポリビア式になつて、日本人と余り交際のない者も何人かある。

二〇、日本国政府とボリビア政府との間の移住協定

日本国政府及びボリビア政府は、相互の友好關係を發展させ、かつ、促進することを希望し、このため移住協定を締結することに決定し、よつて、それぞれ次の代表者を指名した。

日本国政府

外務政務次官 森下国雄

ボリビア共和国大統領

外務宗教大臣 マヌエル・バラウ

これらの代表者は、次のとおり協定した。

第一条

この協定の規定に従つてボリビアへ入国することを認められる日本人移住者（以下「移

住者」という)の数は、この協定の署名の日から五年の期間において一千家族又は六千人とする。

両政府は、適当と認めるときは、前記の期間の後ポリビアへ入国することを認められる移住者の数につき合意するものとする。

第二条

この協定に別段の定がある場合を除くほか、移住者の入国の時期、数その他入国に関する細目は、各政府が三人ずつ指名する六人の委員からなる日本ポリビア合同協議会が作成する計画に基づき、ポリビア政府が決定する。

第三条

移住者は、農畜産業に従事するものとし、主として農畜産地方出身の特に勤勉誠実で労働能力のある家族又は個人の中から選考されなければならない。ただし、移住地の保健及び正常な発展を確保するため、少数の保健衛生員、医師、獣医、農畜産技術者、工業技術

者及び企業者を移住者に含めることができる。これらの者の活動は、各移住地又はその周辺に限るものとする。

第四条

移住者の募集及び選考は、日本国政府又は同政府が指定する団体が行う。ただし、ポリビア政府は、必要と認めるときは、この選考に参加することができる。

第五条

出發港から移住地までに要する移住者及びその携行荷物の輸送費は、ポリビア政府の負担としない。入植当初において移住者の生活に必要な住宅の建設並びに水及び食糧の供給のための費用も、同様にポリビア政府の負担としない。ただし、ポリビア政府は、これらの費用を軽減するため必要なすべての措置を執るものとし、かつ、将来できる限り早い機会にこれを負担するように努力するものとする。

第六條

ボリビア政府は、移住者又は移住者を受け入れる団体若しくは個人の申請により、移住者の定住に適當な国有地を無償で譲与する。このような国有地の分譲は、この協定の第二条に規定する日本ボリビア合同協議会の勧告を考慮して行われる。

第七條

ボリビア政府は、移住地の設定及び發展を容易にするため、移住者又は移住者を受け入れる団体若しくは個人に対し、あらゆる援助及び協力を与え、土地の調査、測量及び開發並びに土地及び土地開發用機械器具の入手及び借用につき特別の考慮を払い、並びに營農に必要な情報を提供する。

第八條

ボリビア政府は、移住地の隣接市場その他移住地に密接な關係を有する地区に至る主要な道路及び橋りようを建設し、並びにかんがい及び排水の工事を行う。

第九條

ポリビア政府は、移住者のための医療施設を設置し、及び維持し、並びに移住者の子弟のための教育施設を提供する。

第十條

ポリビア政府は、移住者に対し、入国査証料その他入国に際して移住者に課せられることのある課徴金の支払を免除する。

ポリビア政府は、移住者がポリビアに入国するために通過しなければならぬその隣接国と、移住者及び第十二條に掲げる荷物の自由通過及び可能な場合には無税通関のために必要な便宜につき交渉するものとする。

第十一條

日本国政府の権限ある当局又は同政府が指定する団体が発行し、かつ、在外ポリビア官憲が認証した健康上及び衛生上の証明書所持して到着する移住者は、ポリビアへの入国

に際し再検査されないものとする。

第十二条

ボリビア政府は、移住者の自由品及び移住者が携行する業務上必要な農工機械器具につき、関税及び他の課徴金を免除する。これらの自由品及び作業道具が移住者の入国の前又は後の六箇月以内にボリビアに到着した場合にも、同様とする。

第十三条

ボリビア政府は、移住者が禁制品以外の商品で一人当たり平均三百五十米ドルに相当するものをボリビアの領域内に持ち込み、かつ、同領域内で自由に売却することを許可する。この売却代金は、その全額を定着又は営農の費用に充てなければならない。

ボリビア政府は、前記の商品に対し、関税を課するが、その他のすべての課徴金（C・I・F・加重課金を含む）を免除する。これらの商品の品目及び数量は、その輸入許可を得るため、ボリビア政府にあらかじめ通報しなければならない。

第十四条

ボリビア政府は、移住者の入国後三年を経過した後は、当該移住者が、渡航費用に充てるために受けた貸付金を返済するため、一人当り最高三百五十米ドルの額の自由市場で入手した外貨を日本国に送金することを許可する。

第十五条

ボリビア政府は、営農資金及び企業資金の貸付及び回収を主たる目的とする日本国の団体がボリビア国内に支店、出張所又は代理店を設置することを許可する。

第十六条

ボリビア政府は、この協定の規定にかかわらず、この協定に基いて入国した移住者に対し、第三国の移住者に与える待遇よりすべての点につき不利でない待遇を与える。

ボリビア政府は、この協定に基いてボリビアに入国する移住者に対し、社会保障及び労働に関する現行法令上自国民に認められている待遇と同様の待遇を与える。

第十七条

第二条に規定する日本・ボリビア合同協議会は、この協定の実施に關するすべての事項について正常な運営を図るため定期的に又は隨時会合するものとする。

第十八条

この協定の終了は、この協定に基きボリビアに入国した移住者の法的地位及びこれらの移住者に認められた待遇並びにすでに開始された計画の実施に影響を及ぼすものではない。

第十九条

この協定は、日本国及びボリビアによつてそれぞれの国内法上の手續に従つて確認されるものとし、署名の日に効力を生ずる。いずれの政府も、一年の予告をもつてこの協定を廢棄することができる。

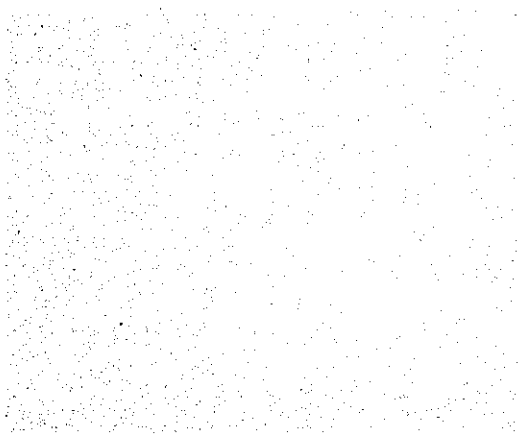
以上の証拠として、正当に委任された日本国政府及びボリビアの政府代表者は、千九百五十六年八月二日にボリビア共和国のラ・パス市で、ひとしく正文である日本語及びスベ

イン語による同一内容のこの協定の本書二通に署名した。

日本国政府のために

ボリビア政府のために

附
表



1. ポリピア経済に於ける金属輸出の相対的重要性を示す表 (単位: 公定ドル/個)

| 年次 | 総輸出額 | 金 属 | 其 他 | 総輸出額に占める金属の割合 |
|------|-------------|-------------|------------|---------------|
| 1938 | 27,393,064 | 24,975,761 | 2,417,303 | 91.18% |
| 1939 | 33,845,578 | 31,574,136 | 2,271,439 | 43.29% |
| 1940 | 49,828,890 | 47,830,036 | 1,998,854 | 95.99% |
| 1941 | 60,649,705 | 57,985,162 | 2,666,543 | 95.60% |
| 1942 | 65,656,822 | 63,158,453 | 2,496,369 | 96.19% |
| 1943 | 81,600,563 | 77,809,652 | 3,740,911 | 95.42% |
| 1944 | 77,553,779 | 72,545,001 | 4,988,778 | 93.67% |
| 1945 | 80,431,630 | 74,787,823 | 5,644,008 | 92.98% |
| 1946 | 73,650,220 | 67,190,003 | 6,459,227 | 91.23% |
| 1947 | 81,268,639 | 78,683,628 | 3,185,001 | 76.08% |
| 1948 | 112,768,462 | 110,856,752 | 1,911,710 | 98.30% |
| 総計 | 744,647,342 | 706,945,199 | 37,702,143 | 94.94% |

資料: ポリピア中央銀行年報 1948.

2. 世界すず産出表 (単位: トン)

| 年次 | 世界の総産出量 | マレー及びインドネシア | ポリピア | 総産出量に占めるポリピア産出量の割合 |
|---------------|---------|-------------|--------|--------------------|
| 1935/39 (年平均) | 170,300 | 84,470 | 25,700 | 15.1% |
| 1940/41 (") | 236,350 | 192,230 | 40,000 | 16.9% |
| 1946 | 87,000 | 14,850 | 37,620 | 43.0% |
| 1947 | 114,000 | 42,940 | 33,620 | 29.0% |
| 1948 | 153,000 | 75,370 | 37,310 | 24.0% |
| 1949 | 162,400 | 83,875 | 34,646 | 21.0% |

資料: 国際すず学会に依るすず工業の雑誌 "すず 1948~1949"

3. 1940~1949 期間にポリピアの取引したすずの平均価格表

(純すず1ポンド当り US \$)

| 年次 | 1940 | 1941 | 1942 | 1943 | 1944 | 1945 | 1946 | 1947 | 1948 | 1949 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 平均すず価 | 0.4980 | 0.5201 | 0.5470 | 0.6125 | 0.6125 | 0.6433 | 0.6500 | 0.7275 | 0.9400 | 0.8837 |

資料: 1950年3月パリで開催された国際すず学会の第五回例会のための寛政。

提供: 鉱物及び石油総務部, ランバン。

4. 1940~1948 期間に於けるポリピニア大鉱山の 1 日平均労働賃銀

[社会保険費を含む。単位 US \$ (\$1=Bs. 42)]

| 年次 | 1940 | 1941 | 1942 | 1943 | 1944 | 1945 | 1946 | 1947 | 1948 |
|-------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| US \$ | 0.94 | 1.025 | 1.10 | 1.54 | 1.71 | 2.22 | 2.52 | 3.04 | 3.64 |

資料：ポリピニアのポリ鉄業のための報告。

提供：鉄物及び石油総務部，ラ・パス，1950年2月。

5. 1949 年に於ける各種鉱山グループの鉄物産出高 (但しポリを除く)

鉄

| 鉄山名 | 純鉄 (単位メートル・トン) |
|------------------|----------------|
| パティアーニョ・グループ | 335 |
| オチヌチャイルド・グループ | 4,778 |
| アラマヨ・グループ | 2,334 |
| 中規模鉱山グループ | 2,185 |
| 鉱山銀行——サン・ホセ・グループ | 687 |
| 鉱山銀行——レスカート小規模鉱山 | 15,947 |
| オルモロ市経営鉱山 | 43 |
| | <hr/> 26,311 |

亜鉛

| 鉱山名 | 純亜鉛 (単位メートル・トン) |
|------------------|-----------------|
| オチヌチヤイルド・ダルーゾ | 17,539 |
| アラマニヨ・ダルーゾ | 25 |
| 中規模鉱山ダルーゾ | 30 |
| 鉱山銀行——レスカート小規模鉱山 | 72 |
| | <hr/> |
| | 17,666 |

アンチモニー

| 鉱山名 | 純アンチモニー (単位メートル・トン) |
|------------------|---------------------|
| オチヌチヤイルド・ダルーゾ | 20 |
| 中規模鉱山ダルーゾ | 6,377 |
| 鉱山銀行——レスカート小規模鉱山 | 3,878 |
| | <hr/> |
| | 10,275 |

銀 (複合鉱石)

| 鉱山名 | 純銀 (単位キログラム) |
|---------------|--------------|
| パチーニヨ・ダルーゾ | 2,590 |
| オチヌチヤイルド・ダルーゾ | 99,609 |
| アラマニヨ・ダルーゾ | 67,428 |
| アメリカ製煉ダルーゾ | 306 |
| 中規模鉱山ダルーゾ | 1,053 |

釜山銀行——サン・ホセ・グループ
釜山銀行——レスカー ト小規模釜山

15,406
20,049

206,441

タソグステソ

釜山名
ハティニコ・グループ
オチスチキイルド・グループ
アラマニヨ・グループ
国際釜山会社 (グループ)
釜山銀行——レスカー ト小規模釜山

WO₂ (単位メートル・トン)

209
128
242
633
314

1,526

銅

釜山名
オチスチキイルド・グループ
アラマニヨ・グループ
アメリカ製煉グループ
ソテゾローサ
釜山銀行——サン・ホセ・グループ
釜山銀行——レスカー ト小規模釜山

純銅 (単位メートル・トン)

1,179
271
3,414
1
7
201

5,073

量 表

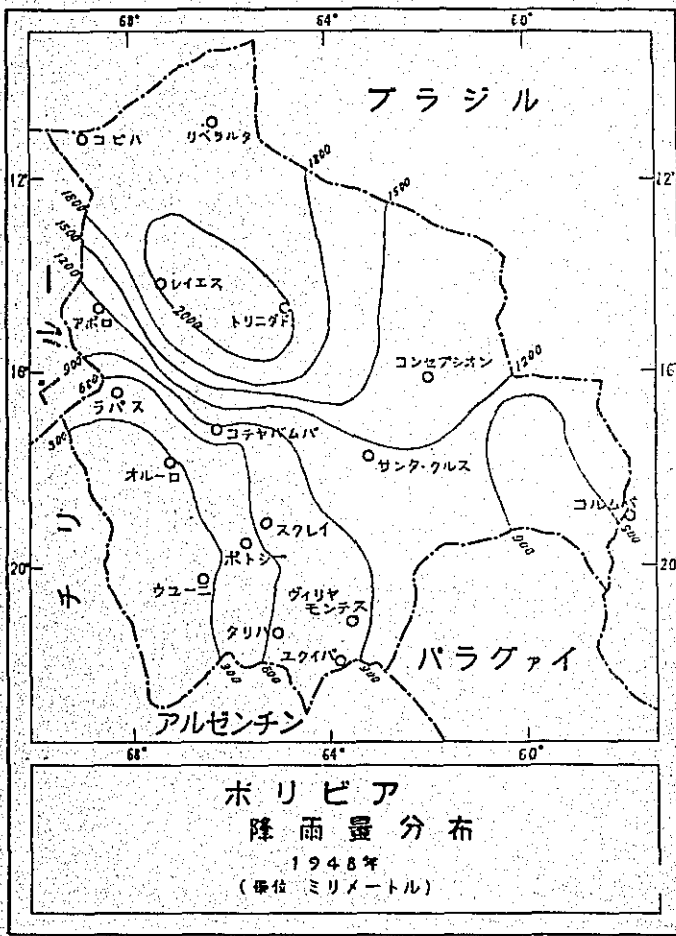
5 年 間 平 均 降 雨 量 (単位ミリメートル)

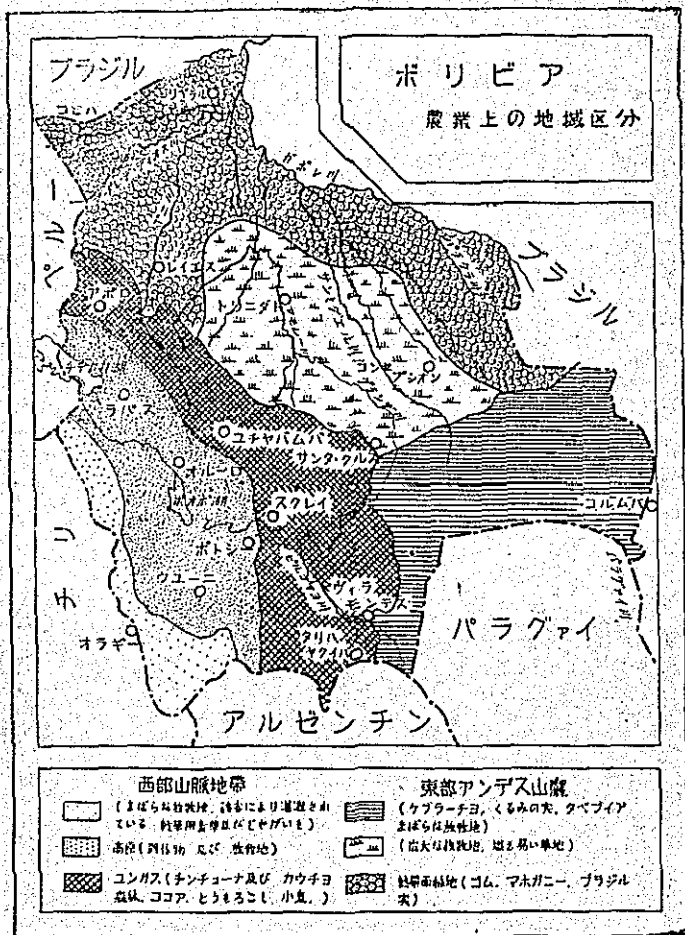
| 春 | 夏 | 秋 | 冬 | 総計 | 行政区分 |
|--------|--------|--------|--------|----------|---------|
| 373.10 | 725.60 | 425.20 | 24.50 | 1,548.40 | ベニ |
| 531.20 | 686.90 | 508.10 | 44.20 | 1,770.40 | バ ン ド |
| 432.90 | 627.20 | 480.00 | 39.60 | 1,579.70 | ベニ |
| 471.20 | 636.80 | 385.70 | 29.00 | 1,522.70 | ベニ |
| 537.00 | 465.90 | 388.70 | 214.60 | 1,606.20 | ラ ・ パ ス |
| 388.50 | 556.20 | 392.30 | 88.00 | 1,425.00 | ベニ |
| 396.80 | 542.70 | 404.60 | 97.40 | 1,441.50 | ベニ |
| 433.70 | 598.60 | 412.20 | 109.60 | 1,554.10 | ベニ |
| 341.10 | 480.10 | 256.40 | 63.10 | 1,140.70 | サンタ・クルス |
| 487.00 | 486.20 | 239.60 | 58.10 | 1,270.90 | ベニ |
| 303.20 | 394.30 | 286.60 | 139.90 | 1,106.00 | サンタ・クルス |
| 395.80 | 527.60 | 347.80 | 139.00 | 1,410.20 | サンタ・クルス |
| 371.80 | 506.30 | 340.10 | 141.50 | 1,213.70 | サンタ・クルス |
| 313.70 | 513.50 | 340.70 | 45.80 | 984.50 | サンタ・クルス |
| 213.10 | 425.70 | 265.90 | 79.80 | 1,370.40 | サンタ・クルス |
| 328.10 | 564.70 | 375.00 | 102.60 | 1,331.70 | サンタ・クルス |
| 246.70 | 488.00 | 401.50 | 95.50 | 984.50 | サンタ・クルス |
| 281.00 | 346.00 | 262.80 | 66.90 | 1,370.40 | サンタ・クルス |
| 331.60 | 624.50 | 260.90 | 47.80 | 956.70 | サンタ・クルス |
| 104.90 | 419.90 | 353.10 | 5.80 | 1,264.80 | サンタ・クルス |
| 190.00 | 529.00 | 177.20 | | 883.70 | チュグイスカ |
| 169.30 | 394.30 | 187.30 | 25.10 | 905.20 | チュグイスカ |
| 112.80 | 388.00 | 197.90 | 18.70 | 776.00 | タ リ ハ |
| 95.80 | 331.40 | 183.20 | 7.90 | 717.40 | タ リ ハ |
| 353.00 | 504.40 | 288.90 | 110.30 | 618.30 | ラ ・ パ ス |
| 399.00 | 360.00 | 498.00 | 163.00 | 1,256.60 | ラ ・ パ ス |
| 104.50 | 318.70 | 79.60 | 3.70 | 506.50 | コチャバムバ |
| 80.00 | 286.80 | 90.50 | 2.10 | 459.40 | コチャバムバ |
| 90.80 | 346.40 | 82.40 | 5.70 | 525.30 | コチャバムバ |

6. 降 雨

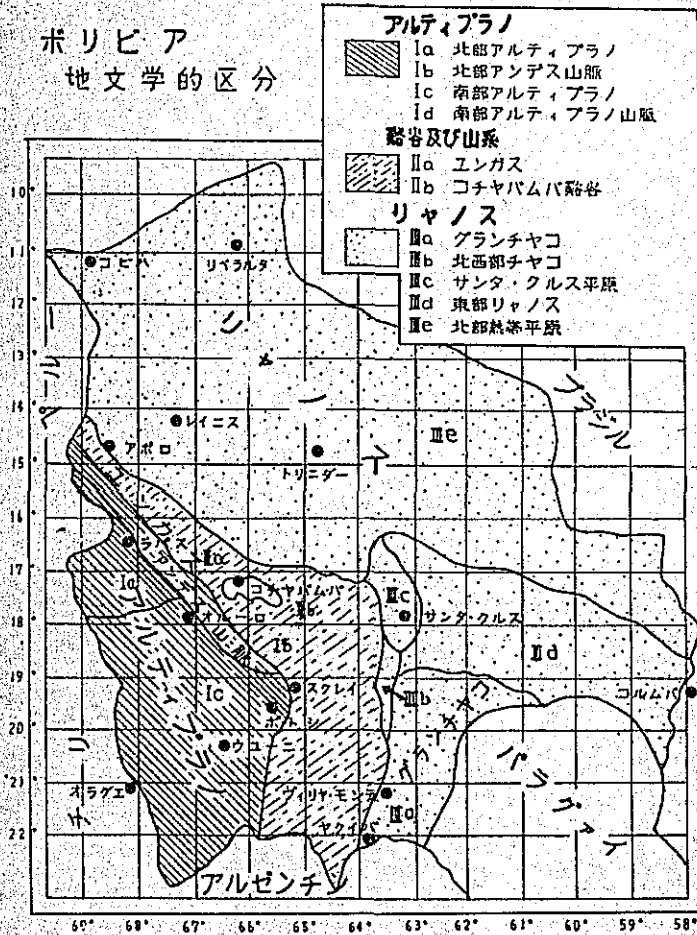
地 理 的 位 置

| 地文学的地域 | 測 点 | 緯 度 経 度 | | 海 抜 (m) |
|--------------------|--------------|---------|--------|------------|
| | | (南緯) | (西経) | |
| 北 部 熱 帯 平 原 | グッアヤラメリン | 10°48' | 65°22' | 170 |
| | コピハタ | 11°01' | 68°44' | 260 |
| | リベラルタ | 11° | 66°41' | 172 |
| | マグダレナ | 13°19' | 63°35' | 260 |
| | ルノナバケ | 14°28' | 67°34' | 227 |
| | トリニダド | 14°45' | 64°48' | 236 |
| | サン・イグナチオ・デ・M | 14°53' | 65°36' | 220 |
| | サン・ボルハ | 14°58' | 67°07' | 226 |
| | コンセブシオン | 16°15' | 62°03' | 490 |
| | サンタ・アナ | 16°34' | 60°42' | 220 |
| サンタ・クルス 熱 帯 平 原 | モンテ・エ・ロ | 17°20' | 63°15' | 420 |
| | ラス・パレラス | 17°26' | 63°12' | 320 |
| // | サンタ・クルス | 17°46' | 63°11' | 442 |
| 東 部 ラノス | サン・イグナチオ・デ・V | 16°22' | 60°59' | 370 |
| | サン・ホセ・デ・Ch | 17°51' | 60°47' | 397 |
| | エル・ポストン | 18°15' | 60°02' | 320 |
| | ロボ・エ・レ | 18°20' | 59°45' | 300 |
| | ヤクアセス | 18°57' | 58°17' | 108 |
| | フェルト・スウアレス | 18°57' | 57°45' | 140 |
| | // | ラグニラス | 19°45' | 63°35' |
| 北 西 部 チャコ | カミリ | 20°06' | 63°33' | 876 |
| | チロレテイ | 20°01' | 64°26' | 1012 |
| グラン・チャコ | ヴィリヤ・モンテス | 21°16' | 63°28' | 520 |
| // | ヤグイバ | 21°58' | 63°41' | 580 |
| ユンガス | アボ・ロ | 14°46' | 68°37' | 1425 |
| | チュルマニ | 16°24' | 67°31' | 1811 |
| コチャバム 谿 谷 | コチャバムバ | 17°24' | 66°10' | 2558 |
| | クリス・サ | 17°38' | 65°52' | 2726 |
| | ラ・アンゴストゥーラ | 17°32' | 68°03' | 2695 |





ボリビア
地文学的区分



7. ポリビアの土壤

1a. 北部アルテイラン

1. エル・アルト石質細砂壤土
石質土壤; A₁; 割合 60%——石を除けばじやがいもに適する。
2. バタナス・シルト壤土
中位の肌理の深い沖積土; A₁; 割合 90%——広範囲の田畑作物に適する。
3. テイキーナ石質壤土
石質、浅く、急傾斜の高地; E₄₆; 割合 19%——放牧地にのみ使われるべきである。
4. テチサカチ壤土
底層土壤、適度の塩分を含む; C_{15-2m}; 割合 10%——放牧地及び、浅水性で塩分に耐える作物に適する。
5. ベレン植壤土
盆地土壤, B₁; 割合 68%——田畑作物に適する。

6. シヤーレ石質壤土

非常に浅い石質の高地、侵蝕が激しい； E_u-3b； 割合 2%——この土地は耕作不可能。

7. ラハ壤土

中位の肌肌の上堆でその下層土は稀密な粘土； C₆； 割合 48%——放牧地及び裸土に適する。

8. アエオリアソソ土塊

表層土は砂地、下層土は適度に稀密な土塊； C₆； 割合 39%——ジャガイモに適するであろう。

9. リオ・コロラド細砂壤土

深い沖積土； A₁； 割合 90%——多くの田畑作物に適する。

IIIa. グラソソ・チャコ

10. ビルコマヨ砂壤土

深い砂質沖積土； A₂； 割合 64%——アルファルファ（イタリー産の牧草でウエゴヤシに似ている）。サツマイモ、粟米に適する。しかし作物栽培のためには灌漑を必要とするであろう。

11. ビルコマヨ細砂沖土

中位の肌肌で深い沖積土； A₁； 割合 95%——多くの作物に適する。

12. ビルコマヨ・ソルト土塊
中位の肌理の深い沖積土; A₁; 割合 95%——多くの作物に適する。
13. ビルコマヨ・ソルト堆積土
中位の肌理の深い沖積土; A₁; 割合 97%——多くの作物に適する。
14. カイダテ堆土
中位の肌理の高地土塊; E₁; 割合 76%——焼却した後は田畑作物に適する。
15. ビルコマヨ砂地
砂質沖積土; A₀; 割合 54%——アルファルファ, きつまいも, 梨畑に適する。作物栽培のために灌漑を必要とするであろう。
16. イタテイテ和砂堆土
適度に浸蝕をうけた高地土塊; E₁-3m; 割合 81%——放牧地に適する。
17. パラベンテイ堆積土
中位の肌理の沖積土; A₁; 割合 81%——広範囲の田畑作物に適する。
18. ビルコマヨ和砂堆土
中位の肌理の沖積土; A₁; 割合 90%——広範囲の田畑作物に適す。

19. ビルコバヨ細砂壤土
中位の肌理の神教土: A₁: 割合 90%——広範囲の田畑作物に適する。
20. ビルコバヨ壤土
中位の肌理の神教土: A₁: 割合 90%——広範囲の田畑作物に適する。
21. エイテイ壤土
ひどく堅固をうけた高地: E₁-3b: 割合 14%——放牧地に適する。
22. イバテイ細砂壤土
中位の肌理の神教土: A₁: 割合 95%——多くの田畑作物に適する。
23. イヒタ砂壤土
起伏のある高地: E₁: 割合 62%——放牧地に適する。
24. ビルコバヨ壤土
中位の肌理の神教土: A₁: 割合 95%——多くの田畑作物に適する。
- IIIb. 北西部チヤヨ
25. フロリダ砂壤土

中位の肌理の沖積土: A₁: 割合 86%——クバンコ、とうもろこし、草等に適する。
26. ビライ堆土

中位の肌理の沖積土: A₁: 割合 90%——コーヒー、稻糠きび、バナナ等に適する。

IIIc. サンタ・クルス平原

27. サンタ・クルス砂地

多砂質性風化土塊: C₅: 割合 43%——放牧地、オレソジコーヒー等に適する。

35. サンタ・クルス砂堆土

砂質風化土塊: C₅: 割合 69%——放牧地に適する。

37. ワルネス堆土

中位の肌理の沖積土: A₁: 割合 90%——砂糖きび、とうもろこし、穀類、油性煎炸物、バナナ等の如き多くの作物に適する。

38. ワルネス砂利質堆土

中位の肌理の沖積土、排水状態が悪い: A₁-1p: 割合 70%——さとうきび、油性煎炸物等に適する。

39. ワルネス畑地土
 中位の肥力の沖積土，下層土は適度に雑密； A₂； 割合 69%
40. サアヴェエドラ砂壤土
 砂質沖積土； A₂； 割合 72%——コーヒエ， タバコ， パナナに適する。
- III d. 東部リヤノス
28. 沖積砂壤土
 沖積土， 下層土は適度に雑密； A₂； 割合 64%——タバコに適する。
29. 沖積砂壤土
 砂質沖積土； A₂； 割合 72%——この地方の農作物の全部に適する。
30. サソ・ホセ砂壤土
 紅土質腐状土塊， 下層土は適度に雑密， あまり肥沃でない； C₂-4p； 割合 60%——タバコに適するであろう。
31. エル・ボストソ砂壤土
 高塩土塊， 起伏から急傾斜へ； E₁-4p； 割合 49%——森林地及び放牧地に適する。

32. ロベロ砂壤土
排水不完全な沖積土； A₁-1p； 割合 76%——多くの田畑作物に適する。
33. 紅土質砂壤土
紅土底盤をもつた層状土塊； C₁₀； 割合 28%——雑木林のままにしておいた方がよい。
34. サソ・ホセ砂壤土
紅土層状土塊； C₁-4f； 割合 64%——もしも肥料を施せば田畑作物の生産が可能であろう。
35. フェルト・スッアレス壤土
泥炭質の岩床に埋たわる石灰質堆積土； E₀； 割合 28%——放牧地に適する。
- IIIb. ニチヤンバハ、穀谷
41. タムボラード壤土
中位の肌理の沖積層状土塊、下層土は適度に稠密で、所々に塩分を含む； C₁-2s； 割合 76%
灌漑を施せば田畑作物に適する。
42. マナタ細質壤土
中位の肌理の深い沖積土； A₁； 割合 90%——多くの作物に適する。但し灌漑を施す必要が

ある。

43. アルカリ性、細砂壤土

塩分含量の多い盆地土壌； B₁-2A； 割合 15%——塩分の為植物栽培不能。

44. クリサ極細砂壤土

沖積土； A₁； 割合 95%——広範囲の作物に適する。但し灌漑を施す必要がある。

45. サソダ・ロサ・シルト壤土

極く少量の塩分を含む沖積土； A₁-2s； 割合 70%——穀物に適する。

46. キラコラシルト植壤土

排水の悪い盆地土壌で極く少量の塩分を含む； B₂-1D-2s； 割合 54%——とうもろこし及びアルファルファに適す。但し排水設備を施す必要がある。

47. シェンジテ壤土

沖積土； A₁； 割合 95%——田畑作物及び果樹園に適する。

1D. 北部アソデス山地

48. チャカルタヤ有機質壤土

起伏した高地; E₁-4p; 割合 48%——放牧地に適する。

57. ソンダウライ有機質壤土

深い高地土壌, おまり肥沃でない; E₅-4p; 割合 19%——自然の状態で置きおく方がよい。

58. クムソノ有機質砂壤土

深い高地土壌, おまり肥沃でない; E₅-4p; 割合12%——放牧地に適する。

IIa. エソガス

52. サカウアヤ壤土

起伏から急傾斜をもつ高地; E₅; 割合 44%——茶, コーヒー, バナナに適する。

53. チェルマニ石質壤土

急傾斜をもつ高地; E₁₀-4p; 割合 15%——茶に適する。

54. チェルマニ・シルト質壤土

適度の傾斜をもつ高地; E₁-4p; 割合 44%——コーヒー, 茶, バナナ, 蜜柑鳳梨樹に適する。

55. コリバダ・シルト質壤土

急傾斜をもつ高地; E₉-4D; 割合 31%, 茶及びコーヒーのみに適する。

56. コリバタ灰壤土

急傾斜をもつ高地; E₉-4D; 割合 31%——茶, コーヒー, バナナのみに適する。

IIIe 北部熱帯平原

49. チンバール・シルト壤土

深い沖積土; A₁-4f; 割合 80%——米, ヌカ, ココア, バナナ, コーヒー, 茶に適する。

50. チンバール・シルト壤土

深い沖積土; A₁-4f; 割合 80%——茶, コーヒー, ココア, ヌカ, 米に適する。

51. トマス・サントス砂壤土

粘土質罔状土壌; C₁-4D; 割合 54%——茶, コーヒー, ココア, ヌカ, 米に適する。河沿いの

の底地と同様に肥沃でない。

59. フボロ植土

高原草地; E₉-4D; 割合 36%——放牧地に適する。

60. レイエス壤土

深い沖積土； A₁； 割合 90%——バナナ、植栽きび、米に適する。

61. リベラルダ壤土

川と丘陵の中間地； 下層土は適度に稠密； C₁-4p； 割合 68%——この地方農産物の全部に適する。

62. ニバンベ種砂壤土

起伏した砂質高地； E₃-4p； 割合 52%； 牧草及びバナナ等に適する。

63. ベニ殖壤土

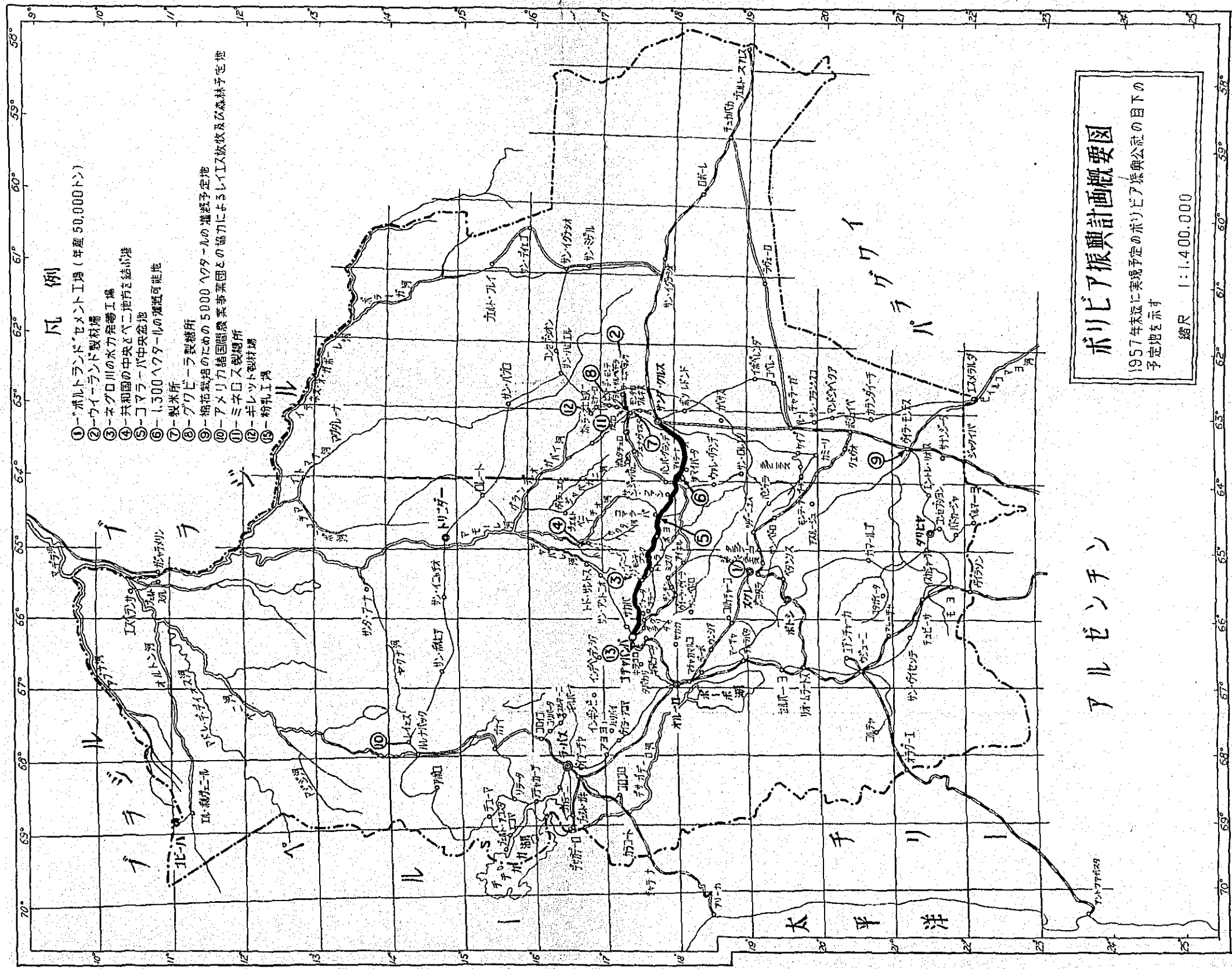
底層のある盆地土塊； B₁-4p； 割合 32%——放牧地に適する。

64. トリニダ下壤土

盆地土塊； B₂-1p； 割合 42%——放牧地に適す。

65. サソ・イダナチオ・シルト壤土

沖積土； A₁-4； 割合 90%——広範囲に利用出来る土地である。



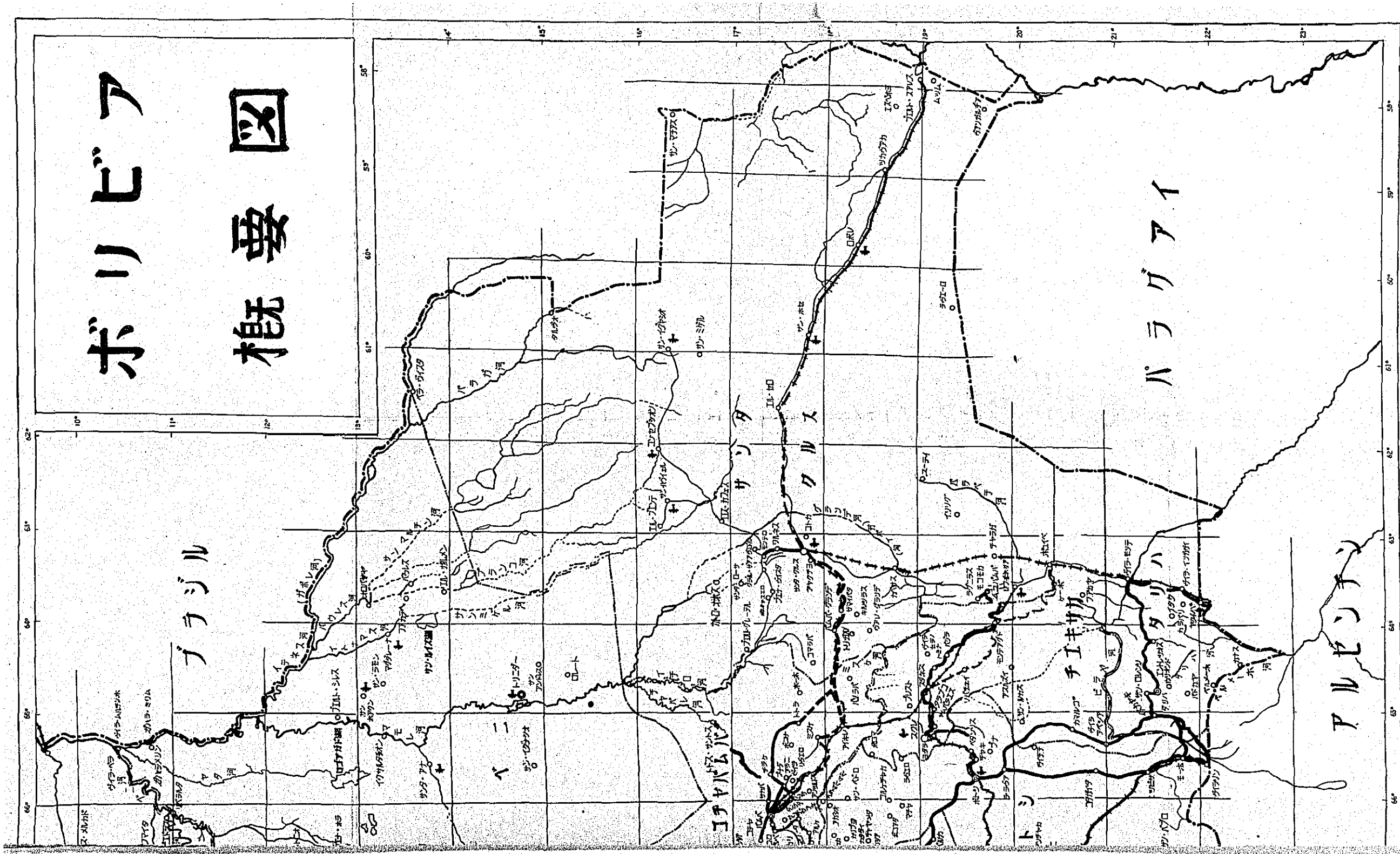
凡例

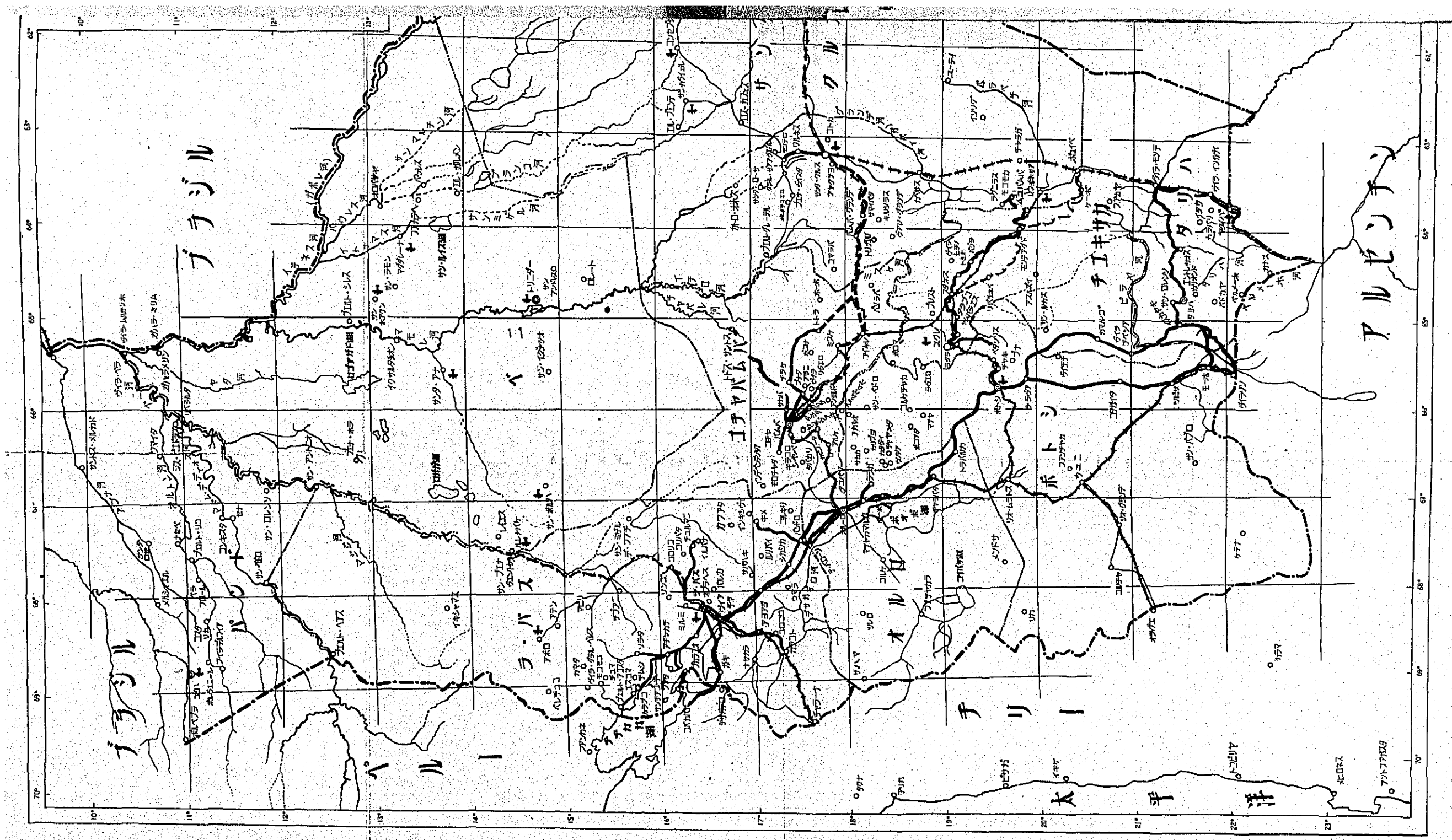
- ①-ポルトランドセメント工場 (年産50,000トン)
- ②-ウイラーランド製材場
- ③-ネグロ川の水力発電工場
- ④-共和国の中央とベニ地方を結ぶ港
- ⑤-コマラーバ中央盆地
- ⑥-1,500ヘクタールの灌漑可能地
- ⑦-製米所
- ⑧-グワビロー製糖所
- ⑨-棉花栽培のための5000ヘクタールの灌漑予定地
- ⑩-アメリカ結晶糖業競争団との協力によるレイズ放牧及び森林予定地
- ⑪-ミネロース製糖所
- ⑫-キレット製材場
- ⑬-粉乳工場

ボルビア振興計画概要図
 1957年末迄に実現予定のボルビア振興会社の目下の
 予定地を示す
 縮尺 1:1,400,000

アルゼンチン

ボリビア 概要図





カリフォルニア

カリフォルニア

カリフォルニア

カリフォルニア

カリフォルニア

カリフォルニア

カリフォルニア

カリフォルニア

カリフォルニア

太平洋

ポリビアの生活と労働
海外移住の手引 第四輯

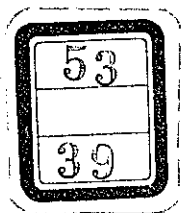
昭和31年11月20日 発行

編集 財団法人 日本海外協会連合会
弘報部

印刷所 倉田屋印刷株式会社
東京都新宿区住吉町九番地

東京都港区芝新橋一ノ一八
(堤ビル八階)

発行所 財団法人 日本海外協会連合会
電話東京(59)1374~6



774.467

Ni - 1

